

まる博ジャーナル

2026 Vol.6

根本陸夫は想いを伝える
エネルギーの塊でした



特集 祝 東海村70周年～Diary～歴史と未来の交流館～
とうかいまると博物館 年間活動レポート 2025.4-2026.3

東海村古文書調査隊 塙南家文書調査

民具整理ボランティア

講演録 元プロ野球選手 石毛宏典氏「おやじ・根本陸夫を語る」

まる博研究員レポート

ジェリーのネイチャーラボ通信 第二号「化石らの黙と対話する」

発見された巨大な堀の正体は？

博物館長と歩く植物観察会

とうかいまると博物館2025年度実績一覧

東海村発足70周年

先人たちの歩んだ歴史を

振り返り、学び、

未来へつなぐ節目の年…



千歯こきで脱穀体験をする子どもたち

歴史と未来の交流館は、活動を通して東海村の郷土を次世代へ伝えていくということが大きな柱となっており、その取り組みの根幹となる事業が「とうかいまるごと博物館」です。「とうかいまるごと博物館」とは、東海村をまるごと屋根のない博物館と捉え、村内全域で活動を展開し、郷土理解・郷土愛の醸成を促進する事業です。

このまる博ジャーナルは、とうかいまるごと博物館事業の活動記録及び本村の歴史・自然に関する情報発信の媒体として発行するものです。

村内の文化財についての情報も盛り込まれておりますので、楽しんでいただければと思います。

生涯学習課 令和8年3月31日

まる博ジャーナル

2026 vol.6

contents

- 04 特集 祝 東海村70周年～Diary～歴史と未来の交流館～
- 12 とうかいまるごと博物館 年間活動レポート 2025.4-2026.3
- 18 東海村古文書調査隊 塙南家文書調査
- 22 民具整理ボランティア
- 24 講演録 元プロ野球選手 石毛宏典氏「おやじ・根本陸夫を語る」
- 32 まる博研究員レポート
- 34 シェリーのネイチャーラボ通信 第二号「化石らの^{もだ}黙と対話する」
- 39 発見された巨大な堀の正体は？
- 42 博物館長と歩く植物観察会
- 46 とうかいまるごと博物館2025年度実績一覧

本誌は歴史と未来の交流館 林 恵子・山西 沙貴が編集・執筆した。
それ以外の執筆者は文末に記した。

特集

祝 東海村70周年

～Diary～歴史と未来の交流館～

【会 期】 令和7年3月30日(日)～令和7年6月1日(日)
【場 所】 歴史と未来の交流館 企画展示室
【入館者数】 6,820人

春
3月～5月

March-May
MARUHAKU JOURNAL

企画展示



祝 村発足70周年
『東海村70枚の写真展 — 変わるモノ 変わらないモノ —』

昭和30年3月31日、石神村と村松村が合併して誕生した東海村。

今年度で発足70周年を迎えました。

この70年間で変わったモノ、変わらないモノは何だったのでしょうか。

70枚の写真に、参加者の皆さんが思い出したことや思ったことをペタペタと貼ってもらう参加型展示です。

展示解説

令和7年3月30日、4月12日(参加者計約30名)

講師・林 恵子 学芸員

参加者と一緒に思い出話に花を咲かせました！





木造駅舎の東海駅(平成2年) (東海村写真連盟蔵)

来館者の記憶の付箋

- 若いころ見た風景なつかしいですね(52歳)
- 就職の出発の日この駅舎から旅立ち不安と期待に胸をふくらませたことなつかしいです。その時、当時の駅員さんが、“バンザーイ”とかけ声を下さり、とても嬉しかったな。思い出の駅、ありがとう。(50代)



旧役場前(昭和60年代か)

来館者の記憶の付箋

- “ジンマート”きいたことあるなあ～(60代)
- ジンマートの裏手に祖父母の家がありました。ジンマートの言葉がなつかしいです。(30代)
- ジンマートが後にジャスコになったんですよね、懐かしいです。(30代)



東海中学校と石橋向住宅(昭和60年代か)

来館者の記憶の付箋

- 小学生の時に、クラスメートが住んでいました。遊びに行った時の初めての洋式トイレにとまどいました！部屋が畳ではなく、床だったのも覚えています。(60代)
- 私もここに住んでいて、プールとグラウンドでよく遊びました。子供会の行事も盛んだったと思います。(S48生まれ 50代)



農作業の休憩(こじはん)昭和20～40年代か (個人蔵)

来館者の記憶の付箋

- 今は文明が発達し暮らしは楽になったがこの頃の方が幸せだったように思う。(60代)
- 我が家にも同じような写真があります。(70代)
- こじはんで家族の大切さを学びました。(70代)

春
3月～5月

March-May
MARUHAKU JOURNAL

まる博マルシェ

【会 期】 令和7年3月20日(木・祝)～令和7年5月5日(月・祝)

【場 所】 歴史と未来の交流館 展示室1

【入館者数】 5,788人

虫こぶ展 〈奇妙で不思議な秘密の隠れ家〉



花の蜜を吸う、葉に卵を生む、葉を食べる、葉に身を隠す―昆虫は、生活と繁殖の場として植物をよく利用します。植物の大部分もまた、花粉による繁殖を昆虫に頼っています。植物と昆虫は、自然の生態系の中においては切っても切れない関係にあるのです。

今回は、植物と昆虫との奇妙な寄生関係の一種である「虫こぶ」について注目しました。普段何気なく見過ごしていた虫こぶが実は虫たちの秘密の隠れ家だったことを知っていますか。奇妙で不思議な虫こぶワールドへあなたをご招待！あなたならどんな虫こぶに住みたいですか？

関連イベント

ミュージアムトーク

令和7年4月19日(参加者数30人)講師 伊理美智子 学芸員 / 安嶋隆 博物館長

虫こぶでお歯黒カードを作ろう！

令和7年5月5日(参加者3人) 講師 伊理美智子 学芸員 / 安嶋隆 博物館長



ノブドウミフクレフシ

- お住まいの虫さま… ノブドウミタマバエ
- 立地 …………… ノブドウの果実
- 入居時期 …………… 6月～10月
- クチコミ評価 …………… 5/5 ★★★★★

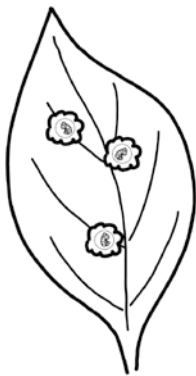
実にできる虫こぶなのでごはんが美味しいです!それだけで星5点つけられます◎



カラスウリクキフクレフシ

- お住まいの虫さま… ウリウロコタマバエ
- 立地 …………… カラスウリの茎
- 入居時期 …………… 6月～9月
- クチコミ評価 …………… 5/5 ★★★★★

茎のお部屋なので細長いです。家具とか多くない虫だったら快適に住めると思います。



ムラサキシキブハケタマフシ

- お住まいの虫さま… タマバエの一種
- 立地 …………… ムラサキシキブの葉
- 入居時期 …………… 6月～10月
- クチコミ評価 …………… 4/5 ★★★★★☆

虫こぶの中はそこまでふわふわではないです。住み心地は良いのでオススメです

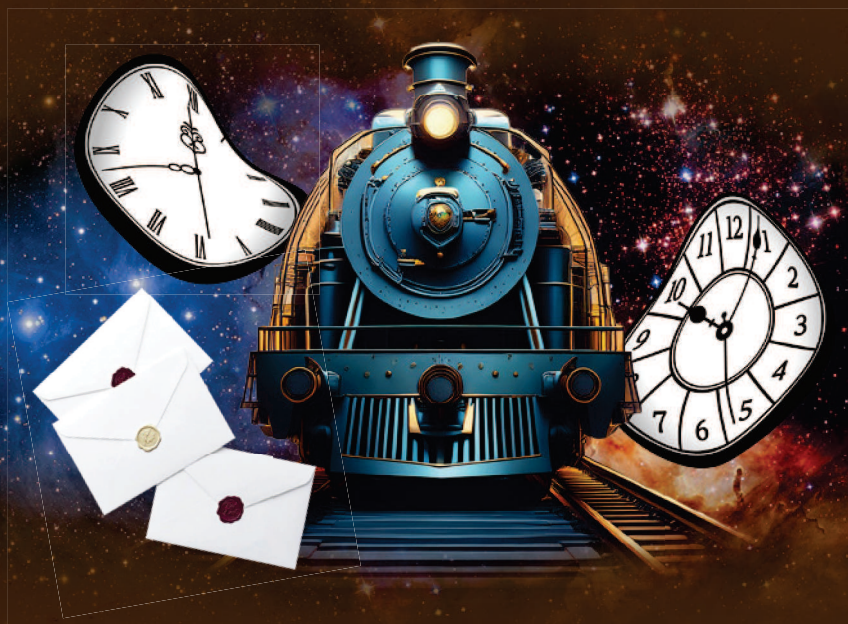
虫こぶ不動産から、
ちよこつとお部屋紹介

夏～冬
7月～2月

July-February
MARUHAKU JOURNAL

企画展・
まる博マルシェ

【会 期】 令和7年7月19日(土)～令和8年2月23日(月・祝)
【場 所】 歴史と未来の交流館 企画展示室・展示室1・交流スペース
【入館者数】 29,423人



— 東海村から届いた招待状 —

時間旅行^{トトラベル}

タイム

へようこそ!

発足70周年を迎えた
東海村からタイムトトラベルにご招待!

「おめでとうございます!あなたを時空を超えた旅にご招待します」

突然、東海村から届いた時間旅行(タイムトトラベル)への招待状。

入っていたのは、時間と乗り場だけ記された乗車券だった。

指定された時間にホームへ行くところに現れたのは「寝台特急 時空列車」

乗り込んだけど、あれ、乗車券に「行先」が書いていない!?

果たして、この列車はどこへ向かうのか!?

発足70周年を迎えた東海村が皆様にお届けするちょっとスリリングな時間旅行をモチーフにした参加型の展示です。

関連イベント

実際に交流館を飛び出してより深く展示について学びました!

● 古墳巡り 令和7年11月2日 (参加者18名) 講師:中泉雄太 学芸員

● ミュージアムトーク 令和8年1月18日 (参加者2名) 講師:林恵子 学芸員

● 竹瓦さんぽ 令和8年1月24日 (参加者17名) 講師:高増慧 学芸員

● 化石発掘体験 令和8年2月15日 (参加者20名) 講師:伊理美智子 学芸員



～1100万年前の東海村～ 深海のマイクロな世界へタイムトラベル

東海村で確認できる地層の中で最も古いのは、新川層という地層です。皆さんはこの地層が降り積もっていた時代にタイムトラベルしてきたのです。新川層は、皆さんが旅してきた「東海村70周年」の時代からさかのぼることおよそ1100万年前に、水深400mほどの深海の底で堆積しました。東海村を形作る台地の歴史は、東海村が成立するずっとずっと前から始まっていたのです。



～1500年前の東海村～ 埴輪ワールドにタイムトラベル

この時代の有力者たちは、自らの権力を示すため巨大な墓「古墳」を造りました。また、古墳の上や周りには、色々な形の埴輪をたくさん並べています。ここでは、皆さん一人ひとりが古墳を調べる考古学者となり、埴輪の特徴をじっくりと観察し、東海村の古墳や埴輪の謎にせまりましょう。



～約100年前の古地図の世界～

ここは、石油や電気によって自動車や機械が活躍するようになる前の東海村。およそ400年前～100年前の古地図を見ながら、東海村の人たちはどのような生活をしてきたかを考えてみましょう。
新しく村指定文化財になった船場村御検地帳の複製等も展示。



～あの日の学校へタイムトラベル～

昔懐かしい学校を再現!?!足踏み式オルガンや給食の食器など、あの日の学校がよみがえります。
さらに、東海村の小中学校の模型が一堂に会しました！
あなたはどんな学校生活を送っていましたか？
学校という共通のテーマは世代を超えて話が盛り上がります。

冬
1月～2月

January-February
MARUHAKU JOURNAL

企画展

【会 期】 令和8年1月4日(日)～令和8年2月15日(日)
【場 所】 歴史と未来の交流館 展示室1
【入館者数】 4,440人

界の人事部長



根本陸夫展

東海村発足70周年記念×生誕100年 東海村の郷土の偉人

アメリカのメジャーリーグで日本人が活躍しているニュースがテレビや新聞を賑わせていますが、実は、東海村にも元プロ野球選手・監督・マネージャー・スカウト・球団社長を務め、オーナー以外の仕事はすべて行ったという伝説の男がいることを知っていますか。

その名も—— 根本陸夫。

父は東海村の村長を務めた根本時之介、祖父は東海村に村松軌道を敷いた実業家である根本秀之介という村の名家に生まれた根本陸夫は今年で生誕100年を迎えます。

プロ野球界に大きく貢献し、その表も裏も知り尽くした男として伝説となっている「根本陸夫」とはどのような人物だったのでしょうか。数多く残される書籍や新聞記事、聞き取り調査から、彼が何を考え、そして何を未来に期待していたのか、そして地元東海村とどのように関わっていたのかを紹介しました。

関連イベント

● 石毛宏典元プロ野球選手(西武ライオンズ他)によるトークショー

「おやじ・根本陸夫を語る」

令和8年1月25日 (参加者数180名)

● 根本陸夫杯 eスポーツ野球大会

令和8年2月11日 (参加者数40名)

夏～冬
8月～1月

August-January
MARUHAKU JOURNAL

トピック展

様々なトピックを扱うミニテーマ展

硯展

大陸の硯に魅せられて

山口歆一氏硯コレクションより

書道で用いられる硯は、古来より文人の心の拠り所として珍重されてきました。

本展では、東海村の書家 故山口歆一氏が長年集められた膨大な硯コレクションより16点を展示し、奥深い大陸の硯の魅力を紹介しました。

【会 期】 令和7年11月1日～令和7年11月29日
【場 所】 歴史と未来の交流館
【入館者数】 3,140人



戦後80年特別企画

東海村と戦争 ― 遺された品々 ―

終戦から80年が経過すると、人々の記憶は薄れ、戦争をどこか遠く、自分達とは関係のないことのように思う方も多くなってきたかもしれません。戦争で亡くなった方の遺品を展示することで、故人の想いや家族や周りの方々の気持ちを感ずり、平和について思いを馳せるきっかけとなりました。

【会 期】 令和7年8月23日～令和7年10月26日
【場 所】 歴史と未来の交流館
【入館者数】 9,727人



茨城にもいた!?

謎の絶滅動物

デスモスチルス

発見から1000年以上が経った今もまだ謎に包まれているデスモスチルス。当館で所蔵するデスモスチルスの化石からその謎に迫りました。

【会 期】 令和7年11月8日～令和8年1月12日
【場 所】 歴史と未来の交流館
【入館者数】 6,150人



とうかいまるごと博物館 年間活動レポート

2025.4-2026.3

とうかいまるごと博物館(通称:まる博)は、東海村全体を屋根のない博物館空間と捉え、村内全域に活動を展開する事業です。東海村では、様々な団体が、郷土を感じ、学べるイベントを実施しています。それらの多様な事業を「まる博」というネットワークでつないで、大きな博物館空間を構成しています。どんなイベントをどんな団体が行っているのか、その一部をご紹介します。

歴史と未来の交流館 2025.4.19



4
April

「虫こぶ」とは、昆虫が植物の花や葉、茎などに産卵することによってイボ状のこぼこぼや毛玉のような形となった、昆虫の秘密の隠れ家です。また、植物の名前が花や葉、茎の形態などから名付けられるように、虫こぶの名前も虫こぶのできる場所や形などから名付けられます。
トークでは珍しい虫こぶや、古くからお歯黒の材料とされた虫こぶが紹介され、参加者は博物館長の解説を熱心に聞いていました。

Report
歴史と未来の交流館
虫こぶ展ミュージアムトーク

工作・実験教室「蒸気力で進め！ポンポン船を作ってみよう！」では、(公社)日本技術士会茨城県支部のご協力をいただき、全員がポンポン船を上手に走らせることができました。また「盲導犬(P.R.犬)とふれあい体験」では、(一財)いばらき盲導犬協会から講師をお招きし、盲導犬の訓練の様子や、視覚障がい者に対する接し方などを説明いただき、盲導犬と触れ合い、盲導犬について理解を深めることができました。
さらに、ひたちなか警察署及び警察本部交通機動隊のご協力による「交通安全教育と白バイ・パトカー乗車体験」・工作教室「光るストラップを作ろう」などを行い、来館者は1158名を数え、イベントは盛況のうちに終了することができました。

Report
ゴールデンウィークイベント

原子力科学館 2025.5.3-4



5
May

東海村自然倶楽部 2025.6.29



6
June

参加した小学4年生から「河口では小魚が多く、川の downstream ではエビやカニが多かったです。色々な水中生物に出会えてうれしかったです。今度は、干潟の生き物について調べたいです。」と感想が届きました。
梅雨の晴れ間の下、干潮で干潟が現れた照沼海岸と、水位が下がった新川河口で、大勢の参加者の皆様と共にごみひろいと生き物観察を行いました。参加する子ども全員がライフジャケットを正しく装着していることを確認して、ライフセーバーの倶楽部会員による海の事故予防のお話をしてから自然観察が始まりました。昨年に引き続き、アクアワールド茨城県大洗水族館から魚類展示課の職員さんが、観察に必要な道具を持参して来てくださり、参加者が採集した生き物の説明をされました。

Report
照沼海岸・新川のごみひろい・自然観察

7 July

J-PARCセンター 2025.7.29-30



Report
J-PARCハローサイエンス
夏休み科学実験教室

7月29日〜30日にかけて、「かたむいているのに倒れない！不思議なコマづくり」、「すがたを変える水ー雪の結しようを観察しよう」、「ハドロンでアクセサリーをつくらう」の講座を実施しました。

このうち、「すがたを変える水ー雪の結しようを観察しよう」は初めての開催でした。ペットボトルの中を湿らせて重り付きの糸を吊るし、ドライアイスでペットボトルごと冷やすことで、雪のような氷の結晶が糸の周りに成長する様子を観察しました。また、水に高い圧力をかけると、普段目にする氷とは異なる構造の高圧で安定な氷ができることも実験で紹介しました。「温度を低くしなくても圧力だけで氷ができること」「高圧氷がいきなりできること」など、新しい発見に驚いたという声が寄せられました。

Report
昼の里山の虫の観察会

今年も筑波大学の藏満司夢先生と真崎ふれあいの森で虫を探しました。今年も学生さん2名も来て下さり、みんなで44種類もの昆虫を見つけました。が、今年も外来種のチョウのアカボシゴマダラが！この虫は日本の国蝶であるオオムラサキの食べ物であるエノキの葉を食べてしまいます。以前はオオムラサキを良く村内で見ましたが、最近は全く見ません。心配です。また虫ではなく古代の「まがたま摸製品」を見つけた人もいてビックリでした。ここは地域のみなさんが管理して下さっているおかげで、多くの生物たちが暮らせる環境が整えられています。里山を守ることはその生物を守ることです。虫取りをした時には、使用したトラップやゴミなどは必ず持ち帰り、東海村の自然をこれからも大切にしましょう！

東海村の環境調べ隊 2025.7.20



7 July

8 August

とうかい子どもキャンパス(Tキャン) 2025.8.2



Report
のぶちゃん先生と神谷博士
率いるチームゲタボンの
空気・真空って何だ教室II

生涯学習課の青少年担当では、とうかい子どもキャンパスとして主に小学生を対象に科学実験講座などを行っています。夏休みにはESS(エンジョイ・サマースクール)という小学生向けの講座の一環として表題のようなサイエンス・ラボを行いました。

始めは、理科活動専門員が小中学校の学習内容に合わせた「空気」についての話とおもしろ実験を行いました。その後はJAEAの神谷博士らとともに「真空」についての話をし、特殊な真空発生装置、「ゲッターポンプ」などを使って不思議な現象を観察しました。最後には、「真空砲」というオリジナル実験装置を使ってピンポン玉をものすごい勢いでアルミ缶に当て、破壊する実験を見ました。会場の皆さんはその音と威力に大拍手でした。

Report
博物館長と歩く植物観察会
「クロマツ林の植物」

東海村の木にも指定されているクロマツが生息する豊岡なぎさの森で観察会を行いました。管理されたクロマツ林と、手を加えていないクロマツ林を歩き比べながら、周辺の植物の育ち方や日当たりの違いなどを観察しました。知らないうちに服にくっついてきている豆のような植物「アレチヌスビトハギ」、その名前の由来は荒地地に生息し、実が盗人の足跡のように見えることから名づけられたと言われているそう、参加者は「足跡に見える？」「これ服にいつぱいくっつく」と大変なんだよね」とそれぞれ感想を述べていました。参加したお子さんたちも不思議な植物を見つけて手に取っては博物館長に積極的に質問をし、楽しく学ぶことができました。

歴史と未来の交流館 2025.9.20



9 September

健康増進課 2025.10.3



Report
みんなですこやかウォーキング
（絆・周回ヘルスロードA〜Dコース）

10月のみんなですこやかウォーキングは、24名の方にご参加いただきました。講師を招いてウォーキング教室を開催し、ウォーキング前に正しい歩き方等の講話と実演を実施しました。参加者の方からは「正しい歩き方を学べてよかったです。」「歩くときは、踵から着地するのを意識しないと。」等の感想がありました。

村内には、子どもから高齢者までの方が安心して歩けるウォーキングコース（ヘルスロード）が9つあり、それぞれにショートコースとロングコースが2種類あります。

東海村の歴史や文化、四季折々の豊かな自然を感じながら歩いてみるといいですね。

Report
J・PARC講演会2025兼
J・PARCハローサイエンス

J・PARCセンターの三原智氏が、「影の主役、ミュオンが見せた素粒子の地図」と題して、ミュオンという素粒子の発見からその性質の解明について、歴史を紐解きながら説明しました。東京大学大学院理学系研究科 物理学専攻教授、クオーク・核物理研究機構の機構長である中村哲氏が、「量子ビームで探る物質の極限―ハイパー原子核から中性子星まで」と題し、錬金術の話から始め、原子核を構成する核子、そしてその核子を構成するクオーク、とりわけストレンジクオークが関わるハイパー原子核研究の最先端を紹介し、今後の加速器施設の拡張による新たな研究の可能性についての話で締めくくりました。

この講演会は、J・PARCの研究活動をご理解いただくために毎年1回行っています。また、毎月ひとつのテーマを掘り下げて紹介するJ・PARCハローサイエンスは今回でちょうど100回目を迎えました。

J-PARCセンター 2025.11.29



11
November

「1994年に世界で最小とギネスに載ったカゲロウゴケを東海村の田んぼで見ました」という思いから、石神外宿の田んぼで、ミュージアムパーク茨城県自然博物館のコケ植物が専門の鶴沢美穂子先生をお招きしてコケ観察会を行いました。

冬の田んぼに生えるコケは、稲刈りのあと田起こしをしない場所に多く見られます。今回は、農家さんにご協力頂き、実際に田んぼに入ってコケをルーペで観察し採集しました。その後、田んぼ近くの願船寺さんで座学と、実体顕微鏡でコケ観察を行いました。鶴沢先生に「東海村の冬の田んぼの特徴」について質問したところ、「カゲロウゴケ、ヤマトツノゴケモドキなど、冬の田んぼを特徴づける種が短時間で豊富に観察でき、植生として豊か」と回答を頂きました。

東海村自然倶楽部 2025.11.1



Report
コケ観察会
〜田んぼに生えるコケ〜

11
November

原子力科学館 2025.12.6-7



12
December

Report
クリスマスイベント

高レベル放射性廃棄物の最終処分場について、映像や壁面展示によって楽しく学べる「ジオ・ラボ号」の展示、地層処分に使用されるベントナイトの不思議な実験、入浴剤バスボムづくり、東大CASTによるクリスマスサイエンスショーでは巨大な空気砲の実演など、原子力発電環境整備機構(NUMO)にご協力いただき、地層処分などについて楽しく学ぶことができました。

ほかに、当館学芸員による工作教室「宝石アークセサリーを作ろう」地球の鉱物でアークセサリーを作ろう、地球の鉱物でアークセサリーを作ろう、ふわふわ(エアドーム)などを行い、来館者は692名を数え、イベントは盛況のうちに終了することができました。

歴史と未来の交流館 2025.12.6



歩く博物館「城めぐり」

歴史と未来の交流館では、学芸員による歩く博物館講座シリーズを行っています。

第二弾では「お城」をテーマに、26名の参加者と石神城跡の――川郭を実際にめぐりました。

現在も発掘調査が行われている茨城県指定文化財の石神城跡は、廃城から400年経過した今も保存状態が非常によく、大迫力の堀や立派な土塁など当時の城の様子がよく残っています。

参加者は、学芸員による中世のお城の特徴や近年の発掘調査で分かってきたことなどの解説に耳を傾け、当時の石神城をイメージしながら思いを馳せていました。



探鳥会2

野鳥の会の大槻先生、富岡先生、川崎先生と、石神城址公園から久慈川河川敷まで歩いて、田んぼの鳥、山の鳥、水辺の鳥と、34種類の鳥を見たり声を聞いたりすることができました。今回、タカの仲間です空から急降下して魚を捕るミサゴ、珍しいハイタカ、チョウゲンボウと3種類も見ることができて、参加者も大喜びでした。昨年は東海村に少なかつたツグミが今年はたくさん来ていてほっとしましたが、スズメやカシラダカ、ホオジロはとも減っています。東海村は里山や田んぼ、海や川もあるので、茨城県の中では鳥がとても多くみられる地域です。みなさんの家の周りや公園には、どんな鳥がいますか？よく見るといろいろな鳥がいます。じっと見ているとかわいくて面白いですよ！身近な鳥の名前を知りたいときは、ぜひ探鳥会に来てください！

東海村の環境調べ隊 2026.1.11



皆さんは、落ち葉が堆肥になったり、虫たちの寝床になったりすることをご存じですか。そこで、「雑木林で落ち葉かきをしよう!!」を企画しました。当日は、この冬一番の寒波襲来の予報。参加者が集まるか心配でしたが、寒さに負けない小学生、野鳥観察の好きな高校生、そして保護者の方々。予定していた全員が参加。集めた落ち葉をブルーシートに山盛りし合せて運びます。囲いの中が落ち葉で山盛りになると、子どもたちはトランポリンで遊ぶように落ち葉の上でジャンプジャンプ。何度も何度もその繰り返し。寒さで縮んでいた体がぽかぽかしてきたころ、雪が舞い始めました。そんなことは何のその、「楽しかった」「落ち葉の中にカエルがいた」「いつもと違う自然を感じる」ことができた「またやりたい」皆さんと楽しい時間を過ごしました。



落ち葉かき

自然のみどりを守る会 2026.2.7



げんでん春のぽかぽかテラちゃんフェア

3月7日(土)・8日(日)に「げんでん春のぽかぽかテラちゃんフェア」を開催し、2日間で延べ563名の皆さまにご来館いただきました。

東海第二発電所の安全性向上対策工事状況の紹介や手回し発電などの遊んで学べる体験をはじめ、ワークキットの配布やチャレンジラリーといった親子で楽しめる催しを行いました。小学生以下対象のチャレンジラリーでは、クイズや巨大パズルなどもあり、小さなお子様にも楽しんでいただきました。同時開催中のつるし雛展も多くの方にご覧いただきました。

東海原子力館別館 2026.3.7-8



とうかいまるごと博物館は多くの 団体の協力によって運営を行っています!



まる博では年度初めに協力団体・企業等を募集しています

「まる博」事業に登録すると、登録事業がリーフレットに掲載され、村内外に周知されます。事業を内外にPRでき、さらなる参加者の増加が見込まれます。

- 対象事業 村内の歴史・民俗・文化・科学・自然・郷土を題材とした講座・見学会・体験・イベント
- 対象事業例 ハローサイエンス(J-PARC主催)、天体観測会(東海村の環境調べ隊)、すこやかウォーキング(健康増進課)など
- 登録方法 事業名と内容、時期を明記の上、東海村生涯学習課 博物館・文化財担当までご連絡ください。
東海村で講座やイベント・体験などを計画されている事業者の皆様、ぜひ「とうかいまるごと博物館」へ登録ください!



J-PARCセンター

J-PARCセンター主催のハローサイエンスは、世界で活躍する研究者や技術者と研究成果や技術開発について気軽に語りあえるイベントです。2016年12月から始め、2026年3月まで104回実施しました。参加費無料、オンラインからも参加できます。サイエンスの世界を覗いてみませんか?



詳細はHP▶



とうかい子どもキャンパス(Tキャン)

「与えられる学びから、自ら求める学びへ!」
とうかい子どもキャンパスは科学実験や工作、野外活動やスポーツなど、多岐に渡る体験活動を1年間を通して提供していきます!
今年も科学実験やものづくりをはじめ、色々な体験活動を計画しています。少しでも興味や面白そうだなと思った講座があれば迷わず参加してみてください。新しい発見などがきっとそこにはありますよ!



東海村の環境調べ隊

私たちは年間を通じて様々な先生方と私たちが暮らしている「東海村の今を知る」活動を行っています。夜の里山で生き物たちを探したり、キノコの先生からビックリなお話を聞いたり、探鳥会でミサゴやハイタカを見たり、天体観測会をしたりしています。その他磯の生き物観察会や、虫たちの不思議を研究する大学の先生の講座、自分らしく楽しく発表するスキルを学んで環境問題を考える講座、野鳥を身近に感じる小鳥のマスコット作りなども毎年実施し、あとでやったことを振り返るように、体験したことをまとめて記念写真と一緒に参加者に返しています。親子で気軽に参加する場を大事にしていきたいと思いますが、大人だけの参加ももちろん歓迎です。またお手伝いスタッフ(高校生以上)も募集中です。興味がある方は生涯学習課までお問合せください。広報とうかいでも行事ごとに若干の募集をしていますので、お気軽にご参加ください。



健康増進課

健康増進課では村民の健康づくりに取り組み、様々な事業を行っています。
令和8年度の「みんなですこやかウォーキング」は、4月、5月、10月、1月、3月の計5回行う予定です。ロングコース(4~5km程度)とショートコース(2~3km程度)があり、ご自身の体調に合わせて、歩きたいコースをお選びいただけます。事前予約は不要です。
ぜひ、みんなと一緒に健康づくりに取り組みましょう!



原子力科学館

原子力科学館は、放射線・原子力について基礎的なことを学び、未来のエネルギーと暮らしのかかわり方を考え、原子力と安全についての理解を深めるための原子力に関する総合博物館です。展示物等のリニューアルを5カ年計画で実施しており、昨年完成しています。ぜひ新しくなった展示をご覧ください。

詳細はHP▶



東海村自然倶楽部

東海村自然倶楽部は、生物多様性を意識した心豊かな暮らしの実現や、市民科学を広め、社会への貢献を目的とした、植物・菌類・苔類・鳥・虫等を専門とする顧問の先生方を含めて約20名で活動しています。顧問の先生方や外部の専門家の指導及び助言のもと、「新川の生物多様性調査」、「全国各地で減り続けているカワゴケの保護保全活動」、「環境保全や生態系の評価において重要な指標種のサンショウウオの保護保全調査活動」、「里地里山・里川・里海での自然観察会及び調査」などのまる博事業等を企画運営しています。イベント参加者に制限はなく、子どもから大人まで誰もが楽しく参加できます。観察会や報告会は、広報とうかいでお知らせします。

第2回東海村のサンショウウオみんなでシンポジウム～あつまれ！自然大好きっ子～サンショウウオ研究第一人者の早瀬利先生・博物館長の安嶋隆先生を囲む



東海原子力館別館

来て、見て、知ってほしい！東海原子力館別館は楽しいことがいっぱい♪手回し発電などの発電体験や、パネルを見ながら答えられるクイズを通して、エネルギーや原子力発電について学べる施設です。また、地域の皆様の作品を展示したギャラリー展も開催しております。どなたでも自由に見学ができますので、お気軽にお越しください。

詳細はHP▶



自然のみどりを守る会

自然のみどりを守る会(略称 みどりの会)のフィールドは、押延ため池いこいの森の雑木林です。(環境政策課が管理する保全管理地区)近年、ナラ枯れや経年劣化で枯木が多くなり、伐採後に補植としてサクラを植樹しています。ヤブで覆われていたオオシマザクラ周辺の遊歩道を整備しました。シラカシやヒサカキなどの常緑樹を間引き除伐し、地表に光を入れ、眠っていた種子を目覚めさせて、今、かつての雑木林の姿を見ることができます。ステキな春の息吹を体感しに訪れてみてください。写真は、なぎさの森でのオオシマザクラ観察会です。



歴史と未来の交流館(事務局)

歴史と未来の交流館は、博物館機能と青少年センター機能を併せ持った複合施設です。事務室には、東海村生涯学習課の職員及び学芸員が常駐しています。東海村の歴史や文化の発信拠点、子どもたちの体験や遊びを通じた活動拠点として、幅広い世代が交流し郷土愛を育み、賑わいをつくる生涯学習の拠点施設となっています。村内の自然や歴史についての様々なイベントや講座を実施しており、企画展ではテーマに合わせたマルシェの開催や、専門家をお招きした講演会を行っています。

詳細はHP▶



東海村古文書調査隊

埴南家文書調査

はじめに

東海村古文書調査隊は、活動をはじめて四年目になりました。歴史資料に慣れてきたメンバーが年々と増えてきました。今年度は今までのメンバーに加え、茨城大学の学生が6〜8月に参加しました。

前年度から調査している埴南家文書の調査が完了しました。



活動風景

1、活動経過・クロマツについて

●5月…ガイダンス、歴史資料の活用と公文書管理について高増より解説、埴南可(敬称略)のスケッチ資料を中心に調査。植物観察会常連の研究員による詳細な調査。

●6月…埴南家文書の調査を行い、スケッチや葬祭関係の史料を確認した。

●7月…より丁寧な目録の取り方とその歴史的理由を解説。埴南家文書の調査については、葬祭関係史料が中心であった。

●8月…前回の調査で数点扱った愛林組合について、茨城県立歴史館蔵「埴千里家文書」の愛林組合関係史料を含めて史料翻刻を行った。事前に村松海岸砂防林の歴史について概略を解説。

●9月…前回に引き続き、愛林組合関係史料の翻刻を行った。

●10月…水戸学について学習するため、大洗町幕末と明治の博物館を見学。和歌や漢詩の史料を通して、歴史が分かることを確認した。

●11月…前回の見学内容について解説。埴南家文書の目録調査を行った。絵葉書を中心とした史料であった。

●12月…9月までに調査していた愛林組合について、まとめ作業を行った。また、論点を出し追加調査が必要な事項を情報共有。

●1月…埴南家文書の目録調査。内容は、絵葉書とスライド関係。

●2月…埴南家文書目録作成。全790点完了

○クロマツについて

1. 現状 白砂青松。美しいクロマツが植栽された村松海岸もその一つである。潮除けや浪除けなどの対策(防災・減災)を目的とする海岸林の植林は江戸時代が始まりであり、水戸藩では「風潮林」と称された。十七世紀末期頃の常陸国を太平洋側から俯瞰する視点で描いた「常陸名所図屏風」にも虚空蔵尊の周囲に松が、浜では塩づくりを生業とする人々が描かれている。現在、海岸林の多くは森林法で規定される「保安林」に指定され、飛砂・飛塩防止、防風、高潮防備、防霧、生物多様性の保全、景観の美しさ、遊びの場を提供するとされている。

2. 海岸林としてのクロマツの適応性 クロマツは日本の固有種でマツ科マツ属、本州、四国九州、南西諸島まで広く分布する、高さ25mになる常緑高木である。類似種に樹皮が赤く、葉が柔らかく、冬芽が赤茶色(クロマツは白色)であるアカマツがある。また交雑種にアイグロマツがある。クロマツは葉が細い針のような形状のため、「適度に風を受け流す」作用による防風効果、海からの砂や塩分を「こし取る」作用により、内地を飛砂・飛塩から守る効果がある(暴風効果)。細胞の中の液胞には塩分をためることができ塩に強い(耐塩性)があり、アブジン酸という植物ホルモンが他の植物より多いため、内臓水分が豊富であり、乾燥に強い特徴がある(耐乾性)。また、地中深く3〜4mまっすぐ伸びる太い根が樹全体を支え、津波に対しても「減勢」効果等がある(深根性)。ハツタケやシヨウロなどのきのこ(菌根菌)と共生することで痩せた土壌でも育つ(耐貧栄養土壌性)。近年クロマツはマツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリ等に寄生し媒介する松枯れ病が危惧されるが、防風効果、耐塩性、耐乾性、深根性、耐貧栄養土壌性など海岸特有の砂地によく適応した針葉樹である。

3. クロマツの記録 ①日本列島に生育するクロマツの起源ははっきりしないもののマツの化石の研究から、クロマツの祖先であるフジイマツは約1700万年前頃ユーラシア大陸に出現し、クロマツは270万年前に現れたとされている。温暖な気候を好んだフジイマツは、氷河期にはいり寒冷化に適したクロマツに種分化し、日本列島が大陸から分断されるのに伴い、日本の固有種として形成されたと考えられている。②本の樹木に関する古い文献としては3世紀の倭国、邪馬台国を紹介した「魏志倭人伝(中国の正史「三国志」の中の第30巻「魏書」烏丸鮮卑東夷伝「倭人」条)がある。

……木には柗(クス)、柎(トチ)、櫟樟(クスノキ)、榅(ボケ)、櫪(クヌギ)、投(スギ)、檀(カシ)、烏号(ヤマグワ)、楓香(カツラ)がある……↓マツの記述はない

(三浦早苗)

2、愛林組合について

大正七年（一九一八）、村松村の村長・澤畑美畝より茨城県知事・力石雄一郎へ嘆願書が出されました。内容は、「海岸の砂が押し寄せ300軒あまりの家々が埋まってしまう危機があるので助けてください。」というものでした。この後、農商務省により「海岸砂防林造成に関する試験地」に選ばれ、大正十二年（一九二三）から、河田杰農学博士を中心にクロマツ林の造成が始まりました。結果として、昭和二十八年（一九五三）までの三十五年間で、一八四ヘクタール、二二〇万本のクロマツを植えました。この事業を地元の労働力として請け負っていたのが愛林組合でした。

真崎区愛林組合は、大正十二年四月に結成しました。その規約は全部で三十三ヶ条あり、国有林・民有林の盗伐・野火を防ぎ、林区署の事業を請け負い、荒廃を防ぎ造林拡張をするための組織とあります。このほか、苗木を育てる場所を確保することや、事務所を現在真崎集会所がある住所に置くこと、那珂郡長・警察署・小林区署長が顧問になったことが書かれています。塙南家の先祖である塙豊之介が組合長をとめ、約60名が愛林組合に入っていました。

そもそも、森林組合は明治三十年（一八九七）に制定された森林法で定められた組織です。石炭や石油がエネルギー源となる前の社会では山林資源が必要でした。戦国時代に1200万人だった人口が、江戸時代に3000万人、4000万人、村松村が嘆願書を出した大正時代には5000万人以上となりました。森林伐採による禿山化は、戦国時代には近畿地方に限られたものでしたが、江戸時代以降、全国的な問題となりました。このようななかで森林法がつけられ、保安林制度ができました。伐採を制限する森林を設定し、洪水や土砂崩れといった災害を防ぐことを目的とした制度です。

村松村に砂防林が必要となった流れは以下のようになります。①内陸部・海岸部ともに森林伐採により大量の土砂が河川に流れ込む、②河川から海へ土砂が流出する、③高波により海岸に砂浜・砂丘が形成される、④砂浜・砂丘の砂が風により内陸部に飛んでいく。十七世紀から二十世紀前半はこのような土砂生産が激しい時期でした。

茨城県立歴史館蔵

「塙千里家文書」（塙南家から歴史館へ寄託しされている古文書）の文書番号一六三は下記のような、真崎愛林組合の議事録です。

（一）で示した部分は虫損により読むことが出来ませんでした。

内容は損木・落葉の競売金をどのように扱うかや利益金の配当、寄付金が必要な内容です。先述のとおり県の林政担当者が地方の中心であったが、担当の「富田主事」の転任に伴う記念品について話されています。実務として、下刈や間伐の日程についての記述も見られます。十名ほどの寄付金の記述があり、黒松林の造成と保護を主眼とする愛林組合では、損木の売買だけでは経営が厳しかった可能性が指摘できます。

大正十二年四月

議決書

真崎愛林組合

（1）大正十二年旧四月十五日評議員幹事集會
大正十一年度第二回損木賣り出シ金全部ヲ電気之寄附金ノ内（三十円）出金スル事ニ決定ス

（2）大正十二年旧九月二日評議員会ヲ開ク
大正十一年度落葉并ニ損木出願之件并ニ落（ノ件）右決定ス

（3）大正拾貳年旧十一月二日落葉拂下納金ノ（ノ件）右決定ス

（4）大正拾貳年旧十一月十五日富田主事殿転任ニ（ノ件）右開キ記念品三ツ組木盃送ル事ニ決定（ノ件）

合ニ付評議員ヘハ各幹事ヨリ弁達スル事（ノ件）

大正拾参年旧正月七日幹事會

大正拾参年旧正月七日損木中第拾三号之危険（ノ件）

大正拾参年旧正月十一日損木糶ニ組合員（ノ件）

左ノ條項決定ス

純利益金配当割ノ別

一、純利益金之五分 出席者連名配当

一、〃 参分 売上金高へ配当

一、〃 貳分 愛林組合基本金萬金

別議

一、組合員労働賃金内ヲ愛林組合之基本金へ寄附スル件

寄附ハ組合之基本金ニ受理スル事ニ決（ノ件）

塙豊之介 関田利工門 須藤六郎（ノ件）

大内菊松 須藤又工門 須藤勝之介（ノ件）

須藤惣之介 宮内誠 吉名二付金拾（ノ件）

計金壹円八拾錢

大正十三年二月十五日幹事會ヲ開キ（ノ件）

大正十三年旧二月十七日ヨリ七日間宿（ノ件）

ニテ兎山下刈ヲ行フ

大正十三年旧八月二日間伐山下刈幹（ノ件）

旧八月三日ヨリ初める事之決定ス

旧八月六日ヨリ向フ五日間行フ此ノ人夫百（ノ件）

大正十三年旧八月十五日新九月十三日組合（ノ件）

ヲ役場へ報知する

大正十四年旧二月二日評議員會ヲ開キ間伐木之始末ノ件決定ス第二須藤光精米所宮内松之介新加入ノ件決定ス

愛林組合関係の史料で点数が多いものが、競売関係の帳簿です。塙南家文書には十一点、歴史館蔵の塙千里家文書に五点残されています。左表は、歴史館蔵の塙千里家文書の大正十四年眞砂山間伐木材の競売史料から作成したものの一部です。合計売却額が一八六七円一〇銭です。当時の勤労者世帯月収の平均一四円と比較してもかなり大きな額といえます。一人当たり三〇円分ほどの間伐材を取得しています。組合員であると割引金があり、おおよそ27%の割引があったことが分かります。全ての落札者が組合員で、割引が適用されました。五八名なので、おそらく全組合員が何かしらの間伐材を取得したと考えられます。一本あたりの金額も三円ほどで、下記の被害木で扱われる枝木よりも高価です。

	金額(銭)	本数	1本あたりの金額	割引金	割引率(%)	人名
1	2340	5	468.0	644	27.5	石川三之介
2	3400	10	340.0	952	28.0	須藤半次郎
3	5050	17	297.1	1400	27.7	須藤六郎
4	1090	5	218.0	280	25.7	大内義
5	3990	11	362.7	1092	27.4	照沼惣兵衛
6	2470	9	274.4	670	27.1	宮内新介
7	2650	11	240.9	728	27.5	関田利之介

(中略)

58	20					久須見藤三郎
合計金1867円10銭						



塙南家文書391

多くの競売史料では、間伐材でなく「被害木」つまり風雨などで折れてしまった枝を扱うため、少額でした。用材を生産するための森林組合と違い、海岸砂防林の形成を行うための愛林組合であったため、収入の観点からは下記のような少額の収入でした。また、青年団や消防団への寄付が記述されている史料もあり、公益的な性格がうかがえます。

下記は塙南家文書三九一番の冒頭部分です。損木を採集して、売却したことが分かっています。大きな枝木から順に「用薪、枝」とあり、合計で三十九円二〇銭で、薪の量から黒松が赤松の二倍ほど生えていたと推測されます。組合員が八日〜十日まで活動しました。

種類	数量	単価	合計	人名
被害木調帳				
枝採取(出)	席人名			
黒松二本	用二立方	単二〇〇	四円	
赤松二本	用二立方	〃二〇〇	四円	
黒松	薪二立方	〃九〇	十九円八十銭	
赤松	薪一立方	〃九〇	九円	
松枝	二百四十把	同	二十四十銭	
		計三十九円二十銭	39.49	
八日	九日	十日	二十六号	伊勢代
〃	〃	〃	十号	関田信利
〃	〃	〃	三十七号	岩間末次郎
〃	〃	〃	三十一号	須藤兼四郎
〃	〃	〃	三十三号	町野篤一
〃	〃	〃	十一号	大内長三郎
〃	〃	〃	十九号	仲田兼松
〃	〃	〃	十三号	須藤
				大関竹松

2、スライドにみる昭和二〇年代の教育

塙南可は、村松村時代に子ども会を創設・運営してきた人物です。自転車に紙芝居をのせて各地を走り回り、室内ではスライドを用いた教育を行っていました。この話が当時子どもであった世代の人たちから語り継がれていました。このため、塙家のスライド子ども会という認識でした。しかし、文書番号四三三八「村松村関係幻灯スライド一覽」には左記の表のように書かれていました。スライドに合わせて話す台本も残され、感情の込め方、司会進行などの書き込み、「村松村教育委員会」の蔵書印があり、しっかりとした管理のもとで教育に活用されていたことが分かります。題材については、子ども会は物語が多く、教育委員会や婦人会所管の一般向けには日常生活にかかわる事柄や病気が多く、学校は理科や社会で図像が必要なテーマのものが多くあります。時代的特徴として、赤痢など当時注意すべきであった病気や生活改善が挙げられます。昭和二十二年に片山内閣が新生活運動に期待し、昭和二十六年茨城県で生活科学化運動が始まりました。「封建的因習」を見直し科学的・合理的に食生活や生活環境の改善を目指しました。

所管	対象／タイトル	所管	対象／タイトル	所管	対象／タイトル
村松子ども会	赤痢菌	村松小	一般/まぶたの母(レコード付)	教育委員会事務局	一般/住居の工夫
	福沢諭吉		村松小球技大会(自作)		一般/結婚改善の道
	天下のチウ公		一般/土の人 長塚節		一般/農村衣生活の改善
	ほがらか行進曲		高学年・中学校/関東地方		一般/けむたいカマドよいカマド
	デブ君と細君		高学年・中学校/昔の商業		一般/台所の改善
	姥捨山		高学年・中学校/立憲政治のはじまり		児童/わらしべ長者
村松村婦人会	一般/塩原孝止伝	東海中学校	高学年・中学校/製鉄所		児童/かさとおじぞうさん
	一般/愛の少年審判		高学年・中学校/石炭		児童/こやぎとおおかみ
	一般/私のお母さん		高学年・中学校/造船所		児童/サザエさんのしくじり日記
	一般/野口英世とその母		高学年・中学校/地球の始まり		全学年/三太の東京見物
	一般/ねずみの嫁入り		高学年・中学校/化石のはなし		高学年・中学校/貨物列車
	一般/鶴の恩がえし		高学年・中学校/栄養のはなし		高学年・中学校/すまいの歴史
	一般/母子手帖		高学年・中学校/水の循環	高学年・中学校/乗物のいろいろ	
	一般/健康生活と迷信		高学年・中学校/火山と温泉	高学年・中学校/都会の橋	
	一般/新しい村の育児		高学年・中学校/星の話(春夏)	高学年・中学校/目の衛生	
	一般/妊娠より出産まで		高学年・中学校/月と太陽の話	高学年・中学校/伝染病	
	一般/農村の生活改善		高学年・中学校/人体生理図鑑	高学年・中学校/僕は水の分子である	
	一般/台所の改善		高学年・中学校/微小世界(植物編)	高学年・中学校/電気	
	須和間小		一般/江の島エレージ(レコード付)	高学年・中学校/毛糸のお話	高学年・中学校/歯の衛生
			一般/歌入り観音経(レコード付)	高学年・中学校/火山	高学年・中学校/生物の進化
晴嵐子ども会	愛の少年審判	高学年・中学校/川の石	高学年・中学校/寄生虫		
	イソップ傑作集	子供の楽園	高学年・中学校/池や沼の虫		
子ども会	星	マッチ売りの娘	高学年・中学校/乾電池		
	豊田佐吉	ねずみ	高学年・中学校/私達の身体消化器系		
	西郷と大久保	私は野球です	高学年・中学校/私達の身体 眠の話		
	アメリカの決戦	みんな揃って赤い羽根	高学年・中学校/私達の身体 循環系		
	火を吹く扇	広場の子供達	高学年/深山の植物第一集(喬木帯)		
	家来三人	アंकルトム物語	高学年/深山の植物第二集(高山帯)		
	雪の女王	いろは文字	高学年/深山の植物第三集(高層湿原)		
	ヘンゼルとグレーテル	月夜の迷子	高学年/深山の植物第四集(高層池沼)		
古文書調査隊の活動は四年目に入りました。史料の読解を中心に活動を行いました。また、活動以外の時間に関連文献の調査を行うメンバーがいた事で、より調査を深めることができました。茨城大学の学生の参加もありました。来年度より充実した活動になることを願っております。 学芸員 高増慧	村松子ども会	結核とのたたかい	高学年・中学校/昆虫の足		
	文化のはじまり	ゆうぴんやさん	高学年・中学校/めずらしい動物一集		
	ゆうぴんやさん	小ざるの失敗	高学年・中学校/めずらしい動物二集		
	僕一家	僕の一家	高学年・中学校/身を守る昆虫		
	兎の郵便やさん	兎の郵便やさん	高学年・中学校/地層の見学		
	織鶴物語	織鶴物語	中学年/幸福の王子		
	ヒヨコの留守番	ヒヨコの留守番	高学年・中学校/ロビンソンクルーソー		
	暦はどうして出来るか	暦はどうして出来るか	低学年/こぶとり		
	父持つ夢	父持つ夢	低学年/お山の対象		
	学校の牛	学校の牛	中学年/白雪姫と紅ばら姫		
			高学年/月光の曲		

民具整理ボランティア 2025

歴史と未来の交流館に日々持ち込まれる様々な資料。

村民の方々と一緒に、それらを整理しながら、当時の時代背景や文化を学ぶ講座です。

活動は月に1回、5〜10人程で行っています。どなたでもいつからでも参加できますので、興味がある方は歴史と未来の交流館までお問合せください。一緒に楽しく昔のモノに触れましょう。



第1回	5月22日	ガイドダンス レコードの整理
第2回	6月19日	レコードの整理
第3回	7月24日	消防団・学校文化財の 清掃、整理
第4回	8月21日	国体の資料の分類、整理
第5回	9月18日	絵はがきの分類、整理
第6回	10月23日	マッチ箱の整理
第7回	11月20日	校章やピンバッチの分類、 整理
第8回	12月18日	中止
第9回	1月22日	ひな人形の整理・展示
第10回	2月19日	かけ軸の整理

1. そもそも「民具」って何？

「民具」とは、渋沢敬三(渋沢栄一の孫)がつくった造語です。その意味は、『民俗学事典』には「一般庶民が、その日常生活の必要から、製作・使用してきた伝承的な器具・造形物の総称」とあります。民具は、地域の生活のものにつくられており、地域を基盤に伝承されていくものです。同じ用途のもので地域によってさまざまな工夫と変化がなされ、その土地独特のものが出来上がります。よって、民具を調べること、「地域の生活文化」を明らかにすることができるとは、

2. 歴史と未来の交流館に 收藏される「民具」とは？

歴史と未来の交流館に收藏される民具の収集時期は大きく分けて2つに分けられます。

- 第1期 90年代〜2000年
- 第2期 2022年〜

第1期は20世紀の最後に世代交代が叫ばれる中で、東海村教育委員会



によって収集されました。第2期の2022年は歴史と未来の交流館が開館した年です。2022年より多くの民具が収集・收藏されました。その多くは村民から寄附という形で持ち込まれたもので、そのほとんどが、村民が「もう使わなくなった」「いらぬ」ものです。

しかし、そもそも生活の中で作られてきた民具が「いらぬ」とはどういう意味を持つのでしょうか。
なぜ「いらぬ」のか、それを考えながら、民具を整理していくと、東海村や社会の変化を明らかにすることができます。

3. 主な活動状況

【レコードの整理】

交流館にはレコードの寄贈が多くあります。それらを1点ずつ記録しながら、整理していきます。浪曲が多かったり、クラシックが多かったり、寄贈者の趣味を想像しながら整理しました。

【学校文化財の整理】

夏の展示のために、各学校から古い学校文化財が交流館に集結！ それらをきれいに清掃しました。左写真は、村松小学校に保存されていた旧白方小学校の刻印がある木の机。それぞれの学校の思い出を話しながら楽しく整理しました。



【国体関係資料】

「水と緑のまごころ国体」は1974年に茨城で開催された第29回国民体育大会です。東海村はホッケー会場でした。当時役員を務めていた家に保管されていた寄贈資料を整理していきます。プログラムやペナント、役員章やピンバッチ、開会式のパンフレットなど様々な資料がありました。

【観光絵はがきの整理】

昭和30年代以降、高度経済成長と



ともに大衆観光（一般市民が観光できるようになる）が広まり、各地の観光地でさかんに絵はがきがつくられ、お土産として売られるようになりました。絵はがきには、今では見ることができない当時の観光地の風俗、文化、風景、行事が描かれています。村民から寄贈された絵はがきコレクションを整理しながら、人々がどのような場所を観光地として捉えていたのかを考えました。整理した成果は令和8年春の旅展に反映されました。



おやじ・根本陸夫を語る



ご紹介いただきました石毛です。東海村70周年、根本陸夫生誕100年、親父が生きていたら100歳なんですね。いま私のプロフィールを掲げてもらいましたが、このように語れるようになったのは根本陸夫のおかげだと思っています。また、久しぶりに息子の権介であるとか、根本のおやじは、結構アメリカ行っていたんです。アメリカがぶれみたいなどころもあるのですが、その時に一緒に通訳で行っていた葛谷さん、もともと西武建設の方ですが、その英語力を活かしながら西武ライオンズに入って、通訳をしながらフロントとして、外国人の獲得などに尽力された、そのご子息が今日来てくれています。親父が取り持ってくれた素晴らしい面々とお会いできてうれしく思います。

根本陸夫を親父と慕っている、教え子がたくさんいます。上は土井正博さんから始まって、下は清原くららまで、いわゆる野球界の問題児が根本さんの力で更生されてまっとうに生きてきた。ちょっと清原は脱線しましたが、順調に回復しています。

(一同笑い)

根本さんとの関わりを話しながら、どういふ人間だったのか、どういふ教えを持って我々がどういふふうに生きてこられたのか、人生100年に向かって、70歳になる人間がどのようなことを思っているのかということをお話したいと思います。

プロ野球選手になりたいと思ったことは一度もない

まず、一九八〇年ドラフト1位で西武ライオンズ入団することが出来ました。関係者の林さんと藤田さんに東海村のいろいろなところを見せてもらいました。僕が生まれ育った千葉県九十九里の旭市と大体似ているかなと思う気がします。ぼくの実家は農家でして、米作って、麦作って、さつまいも作って、落花生作ってたので、とても懐かしかったです。

実は、わたしは甲子園に行きたいと思ったことも、プロ野球選手になりたいと思ったことも一度もないのです。なんでそんな人間がプロ野球選手になってしまったのかということですが、ぼくが子ども頃は11人家族で、農家です。そんな中、おぶろろが嫁として野良仕事、家事、姑、小姑等で苦労しておりまして。時折涙を流していました。今の農業は機械化されていますけども、当時は手仕事でした。野良仕事するのが嫌で、おぶろろの涙を見るのが嫌で、どうやって家に帰らなくていいのかなと考えました。中学校に入って、部活を放課後見学しました。一番遅くまで練習しているのが野球部でした。これが野球との出会いでした。小学校のころは遊びで野球はしていましたが、スポーツで野球を選んだのは中学からです。野球部に入りますとですね、昔ですから、練習が終わると、部室に「集合」という事で、正座からって訳もなくぶん殴られるわけです。だけど、自分が決めた野球部だったので、辞めるわけにもいかなないという事でやりました。僕は百姓の次男坊で兄貴がいたものです。

1 葛谷 隆一：西武ライオンズ、ダイエーホークスで根本陸夫を支えた通訳。西武ライオンズで活躍したデストラーデは、中日や阪神も興味を持ってくれたが、直接会いに来てくれたのは葛谷さんだけだったと語っている。

2 土井正博：一九四三年生まれ。一九六一年、根本陸夫の誘いを受け高校を中退し近鉄バファローズに入団。

3 木樽正明：一九四七年生まれ。一九六五年にエース・四番打者として甲子園で準優勝。翌年に東京オリオンズに入団、一九七〇年にMVP。一九七六年に引退し、ロッセオリオンズのコーチやスカウト、巨人の編成部などを歴任した。

から、昔は、長男坊は大事にされましたけど、次男坊はぐつでもいい感じでした。

中学二年の頃に、野球はつまらないと思いましたが、卒業したら大工になるうと思っていました。ちょうど経済がよくなっているころだったのか、建築ブームがあって、自分の作った家が後世に残るのもいいかなと思っていました。中学三年の夏が終わりまして、さでぐつしようか、なかば大工に決めていますけど、担任の先生と野球部の監督が高校行って野球やれという話になりました。ぼくは「嫌です。」といいました。

「なんだ」
「また、ぶん殴られるの面白くないじゃないですか、やりませんよ、大工になります。」

「だめだ、高校で野球やれ。」
「嫌です。」
「おまえじゃ坊が明かん。」

田んぼに来て親父とおぶくる説得するわけです。昔は先生の言う通り、親の言う通りでしたよ。「先生が言ったたら野球やれ。」

有無を言わず、でした。
「だったら銚子商業ですか。」

あの頃は銚子商業高校が強かったですから、僕らがガキの時は木樽さんが甲子園で準優勝して、凱旋パレードして、商業は野球が強いんだというイメージがあったんです。

「いや違う。市立銚子に行け。」
なんであんなに弱い所に、と思ったんです。進学校で頭がいいのですが、野球は弱かったんです。市立銚子の監督と中学の担任が仲が良くて、

これから市立銚子は力をいれて強いチームを

作るんだ、選手を集めるんだからお前行けという話でした。甲子園はぐつでもいい、ぐつせ銚子商業強いと思っていました。僕は、旭の家から駅まで自転車で20分、電車で30分、駅から学校まで歩いて20分、始発で行って、最終で帰ってくるわけです。授業中いつも寝てるわけですよ。監督が校長にお願いして「野球部は寝てるから起こさないでくれ」というわけですよ。

(一同笑い)

進級はいつも赤点ぎりぎりでした。でも、結局野球は強くなりました。春は銚子商業に勝つわけです。夏は、銚子商業と決勝で当たるわけです。千葉の県営球場が銚子の太田監督がいっぱいで、客席は野球好きの連中いっぱいなんです。結局二対〇で負けるわけです。かたや銚子商業が甲子園に出て全国制覇ですよ。エース土屋、ドラフト一位で行きました。二つ下に篠塚君がいました。そのチームにうちは負けた訳です。当時はキャプテンやってたわけです。涙は出ませんでした。やった明日から夏休みだ、と思えました。銚子商業が全国制覇で凱旋パレードですよ。銚子の体育館で石毛が土屋正勝に花束やわっていうわけです。

「嫌です。なんであいつにそんなのやらなきゃいけないんですか。嫌です。」

「いいからいけ。」
「嫌です。」

それで監督にぶん殴られて、殴られたら涙が出るじゃないですか。涙をぬぐいながら正勝おめでとつって渡しました。

「そんなに喜んでくれているのか」

(一同笑い)

「ちがうよ。そこで監督に殴られて涙が出てんだよ。でもおめでとつな。」

市立銚子高校は普通科が優秀で進学校。もう一つ工業化学科というのがありました。これは就職クラスです。普通科にいくと勉強のためにみんな野球辞めちゃうんです。なので監督は工業化学科で選手集めて強くなりました。工業化学科は化学・物理です。二年生の時に工場見学があります。東京に出て行き、大日本印刷、武田薬品、花王石鹼の会社を訪問するわけです。そして花王石鹼がいいかなと、ハンドクリームのニベアがあります。これを開発したのがうちの高校のOBです。これがい

いかな。そしたら、千葉県大会予選、結構打ったんです。足もそこそこ速かった。守備もうまかった。それを駒澤大学の太田監督が見てたんです。駒澤大学に欲しいと言ってくれました。秋に大学に来ませんかと言われました。行けません。兄貴が大学行ってませんから、次男坊が行くわけにいかないと思っていました。太田監督が何度か来てくれました。その時、兄貴はグシマました。三度目に太田監督が来た時に、兄貴が同席しました。

「太田監督よ、こいつ野球で飯食えるのか。ものになるのか。」

「なる。」

「本当か。」

「なる。」

それを聞いて確かめた兄貴が
「親父、大学行かしてやってくれ。野球やらせてやってくれ。おれが農業を頑張る。」

グシマして家に近づかなかった兄貴が家に帰ってきた、百姓やりだしたんです。兄貴を更生させたのは

4 土屋正勝：一九五六年生まれ、一九七四年に甲子園優勝、翌年中日ドラゴンズにドラフト一位で入団。一九八六年に引退し、地元旭市で保険会社を経営している。

5 篠塚和典：二年生のときに甲子園優勝。長嶋茂雄に見込まれ一九七五年に読売ジャイアンツにドラフト一位で入団。一九八四年・一九八七年にセリーグ首位打者。

6 太田誠：一九三六年生まれ。駒澤大学野球部で、東都大学野球リーグの首位打者二回、ベストナイン一回。監督として、東都大学リーグで前人未到の501勝を達成。リーグ優勝22回、全日本大学選手権優勝5回、明治神宮大会優勝4回の名監督。

7 中畑清：一九五四年生まれ。一九七六年巨人入団。ゴールディングラブ賞7回。愛称は絶対調男、大将、燃える男、ヤッターマン。

俺の力なんです。

(一同笑い)

それから兄貴がずっと今まで百姓やってくれます。そんなことがあって、なにも甲子園行こうとか、プロに行こうとか何も思っただけです。これも言っておきましょう。大学に入ったらですよ、六畳一間の寮生活。僕は一年生、四年生が部長でした。部屋長は中畑清先輩でした。

(一同笑い)

なんで中畑さんの名前出ただけでみんな笑うんですかね。まあ、あのままです。それで、せっかく大学まで行かせてもらえるのだったら、教職をとって先生になって、母校で監督でもやろうと思っただけです。学ランを着て学校に行こうと思っただけです。中畑先輩が、

「おい、何考えてんだよ」

「いや、授業にいきまわよ」

「授業行ってどうすんだよ」

「教職を履修してるので、先生になります」

「馬鹿かお前。やめとけ、やめとけ、無理無理無理。学ラン脱いでジャージ着て、そのへん走ってこい」

一年生畜生、二年生動物、三年生人間、四年生神様という身分制度がありました。神様のいう事は絶対でございます、仕方なく学ランを脱いで、ジャージをきてバット振ったり、走ったわけです。その結果、一年生からレギュラーをはって、二年・三年生は日の丸を背負って日米野球の代表メンバーにもなつて、アメリカにも行きました。ある意味では中畑先輩のおかげです。それでもまだ、プロを考えていなかったです。

なんで親父、俺を引くん

結局プリンスホテルを選んでいきました。社会人一年目インターコンチ、キューバでやりました。社会人二年目一九八〇年、WBCの前身です。パンフレットに載ってましたけど、その時のグループです。そのとき学生唯一が原辰徳、シヨートが石毛、原・石毛で目立ったわけですよ、活躍すると新聞の活字になりますよ。田舎だと大変です。うちの屋号ゲンザエモンっていうんですけど、

「ゲンザエモンの次男坊すげえな、将来プロになれんな」

「帰ってこい」

「なんだだよ」

「おい、プロいけ。プロいけば金になるらしいじゃないか。契約金とか、年俸とかだいぶ貰えるらしいな。大学四年間お前に金つかったんじや。その金を返せ」

それで、家族会議がひらかれて、「分かった。プリンスホテルと同じ西武グループに西武ライオンズがあるから、それに指名されたら行ってもいい。それ以外だったら俺はアマチュアに残って生涯ホテルマンをやりたい」

そして、運命のドラフト当日。「西武ライオンズ石毛」。「阪急ブレーブス石毛」。それで籤を引き当たったのが根本陸夫でした。何で親父俺を引くんかと思いましたが。阪急だったら今頃プリンスホテルの社長でもやってました。ホテルマンで東京プリンスにいましたから、その支配人が、

「お前は、ホテルマンとしての所作もいい。将来この支配人やれ」

「ありがとうございます。頑張ります」

「お前は、ホテルマンとしての所作もいい。将来この支配人やれ」

「お前は、ホテルマンとしての所作もいい。将来この支配人やれ」

(一同笑い)

「お前は、ホテルマンとしての所作もいい。将来この支配人やれ」

「お前は、ホテルマンとしての所作もいい。将来この支配人やれ」

「お前は、ホテルマンとしての所作もいい。将来この支配人やれ」

8 IBAFインターコンチネンタルカップ・IBAF(国際野球連盟)が主催していた野球の国際公式戦。一九七九年はキューバで開催された。

9 奥江英幸…一九五〇年生まれ。一九七二年大洋ホエールズ入団、一九七七年ロッテオリオンズ移籍。

ムラン。盗塁もする、四打数三安打二盗塁、素晴らしいデビューでした。

二試合目、プロの洗礼ですよ。打席に入ったらベースボールが頭のほうにくるわけです。新人になめられたらいけないということですよ。奥江さんでした。頭の方にボールがきて、危ないと手をあげて避けようと思いました。手の甲にボールが当たりました。ゴッドボールです。まあ大丈夫かなと思ってきました。次の打席バット持つと手がしびれて痛いんです。ちょっと担当コーチの毒島さんに、「バット振れませんか、どうしましょう。」

監督根本の親父が、「お前、足は使えるんだろつ。出る。」

第二戦目はむこうのピッチャーが愛甲猛でした。バット振れませんが、一打席目三塁側にセーフティバント、二打席目一塁側にセーフティバント。二打数二安打。でも、結局送球を受ける、守備をする、手が痛いんです。

「おやじさん、手が痛くてグローブ入りません。」
「分かった。足は使えるよな。」
「は。」
「じゃあ。」

普通だったら登録抹消です。わたしを、使えない選手をはずして、誰か二軍から上げてくるのが通例なんですが、そのときに親父は、

「お前な、これから他の四球団と対戦する。五球団のうちロケットが終わってこれから四球団と対戦する。ゲーム出れなくてもいい。ベンチからどんなピッチャーがいて、どんな野手がいてどんなプレースタイルなのか見なさい。それが今後のおまへの

仕事だ。」

なかなかそういう判断する人いなかったと思います。勝ちたいがために、使える選手をベンチに置いておきたいわけです。それを石毛はそのまま残しておく、ゲームを見させておく、これがあいつのためになる、という判断をしてくださったわけです。人を育てるうえで大事なことだと思います。

たぶん亀裂骨折をしたと思うんですけど、ゴールデンウイークくらいに復帰しました。そして、なんとなんとなんと打っちゃったんです。いっばい。一時は落合さんと首位打者争うような三割五分くらい打ってたんです。結局終わったら新人で三割一分一厘、ホームラン二十一本、盗塁二十五。立派な数字を残しての新人王をいただいているわけです。プロにもいきたくねえやと思っていた人間が、この数字です。

当時根本監督は、門限なし、ミーティングなし、やりたい放題、野放し状態でした。その時の、根本の親父の口癖は、

「プロだから自主管理当たり前。全て自己責任ですわ。」

なかなか放任主義はとれません。野球界、海千山千いっぱいいるわけですから。みんな野武士状態といつて、二日酔いでも打ちやいんだらう、勝ちやいんだらうつみたいな、そういう人間がごまんといたんです。案外、この野放しが私には合っていたらうと思えます。私の二年目で、監督根本は終わりました。その後は管理部長として全責任者としてチームづくりをしていきました。ドラフトでたくさん選手を指名し、練習生扱いで入団もさせて3〜4年の間に40〜50人の入替えをしました。

素材の良い選手をあつめたわけです。

この選手たちを指導できる、料理できるひとは誰かといつて、広岡達朗さんと呼んだわけです。根本の親父がカープの監督時代に守備走塁コーチだった広岡さんをよばれたわけです。広岡さんの細かい技術論、マインドコントロールのようなミーティングによって西武ライオンズが強くなっていたわけです。今の時代でも強い組織はどうやって作るのかと、いろいろ模索しております。その頃の西武ライオンズ球団の人集めは、根本陸夫がやりました。いい素材をとってきた選手を広岡達朗が指導をしました。マインドコントロールをしました。育った人間を森監督がマネジメントしました。いい組織づくりは、人集め、人の教育、人使いではなかるうかと思えます。それをあの当時やっただんです。なんとという先見の明があったのでしょうか。25歳でデビューして、31歳の時に一億円をもらえるようになりました。プロなんて行きたくなえといったやつがですよ。当時、プロ野球に4人しかいなかったんです。落合さん、門田さん、東尾さん、石毛でした。東尾さんは問題を起こして減俸くらっていました。

(一) 同笑い

チームリーダー

その時のチームリーダーが石毛だったと、巷でもテレビでも新聞でも多かった。その時に親父に、「親父さん、ちょっといいですか。」

「なんや。」

「世間はさ、俺のことチームリーダーなんて呼ん

10 広岡達朗：一九三二年生まれ。

11 森祇晶：一九三七年生まれ。西武ライオンズ監督として、一九八六年から一九九四年までの九年間で八回のリーグ優勝、六回の日本一に導いた。

12 落合博満：一九五三年生まれ。唯一の三冠王。

13 門田博光：一九四八年生まれ。南海ホークスなどで活躍した。ホームラン三一回、打点五二回。

14 東尾修：一九六九年から二十年間ライオンズで活躍。最多勝二回、最優秀防御率一回、最多奪三振一回。

でくれるけどさ、俺なんもそんなしごとしてねえよ。まして親父、プロ野球は個人事業主だよな。クラブチームじゃない、先輩後輩はあるけど、みんな個人事業主だよな。なんで俺のことチームリーダーなんていうんだよ。過大評価だよ、居心地が悪い。」

「いいところに気が付いたな。評価っていうのは他人がして評価だよ。なかなかチームリーダーなんて評価されないな。今の日本のプロ野球界に日本人だけで七百人くらい選手いるよ。そういうふうに言われるのはお前くらいだよ。ありがてえ評価だ。受け取っておけ。でもある意味評価っていうのは、枠があって、節制があって窮屈なんだ。今それを感じ始めているんだな。今後色々なステージに立つこともあるだろうが節制と枠を意識して生きてゆけ。大人になるっていうことはそういうことだ。」

こう言われました。なんか説得力があるように、でも消化できないような話でした。

翌年、一億二、三千万円になりました。

「おい、石毛ちよっと来い。おめえだいが給料上がったな。お前の同僚、一般社会で年俸いくらもらってたんだよ。」

「サラリーマンでいつと、三百万円から四百万円位でしょうか。」

「だ。お前一億二、三千万もらってるな。お前感覚してないか。スーツの似合う男になれ。」

「どういふことですか。」

「オフは、仲間・同僚と企業人、色んな方と一緒に飯を食え。一緒に飯をくって、現実社会がどういふ世の中なのか、話を聞け。お前ら野球選手は温室

のなかに入ってる、外がどんな風が吹いているのか、雨が降ってるのか分かんねえだろ。その感覚を間違えないように、飯をくえ、その時はスーツを着ていけよ。」

なんとなくです。なんとなくです。はい。次に言われたのは、人に迷惑を掛けるな。

「いいか、世の中には敵と味方が半分半分いる。お前が活躍して元気なときは、半分の敵が深く潜行しているだけだ。お前が何かへたすると、半分の敵がワツと来る。そうすると、この社会はおかしいと強く感じてしまう。そんなんじゃない。どんなときも半分半分。それともう一つ。人に迷惑を掛ける攻撃をうけるな。いろんな敵もいるだろう。迷惑を掛ければ、見える敵は前から来るだけだ。前から来る敵がどんな道具をもっているか分かるわな。そしたら防ぎようがあるな。でも後ろから攻撃

されると防ぎようがないんだよ。命落とすぞ。」

非常に重たい言葉ですよね。人に迷惑を掛けるなというのはそういう重みがあるという事です。次は

「いかに人間は人間形成をしていくかだ。野球は一つ的手段にすぎない。野球がちょっと上手くたって、一生野球できるわけじゃねえんだから。野球を使って、いかに人間形成をするかだ。よく覚えとけ。野球屋になるな、野球家になれ。」

政治屋、政治家という言葉があるかも分かりませんが、野球屋だとより利己的な意味かなと、野球家だとより広域的に大きく、視野をみつめられる人間に成れという話でしょうね。

「40歳過ぎたら人生スクラッチだ。」

スクラッチというのは、対等だということですね。40歳過ぎたら、飯食いにいったら必ず割り勘にしる、御馳走になるな。40歳過ぎたら、ひとに意見を求められたら、自分の意見を自分の言葉で語れるようにしておけ。」

今日40歳になりました。はいどつぞって準備できませんよね。ということは、40歳になったときに対等にあらゆる方と付き合っていくためには、例えば30代のときに、それなりの準備をして、学ぶものは学んでおく、備えておくものは備えておく。それがないと対等に話ができないなということなんです。準備の大切さを親父は伝えてくれました。

西武ライオンズ、私は38歳まで14年間お世話になりました。その間、親父は監督と管理部長で、途中ダイエーホークスに移籍されました。38歳のシーズンオフに石毛監督やれと要請を受けました。そのとき、プロでヒット数が1820くらいでした。

15 工藤公康…一九六三年生まれ。一九八二年から二〇一〇年まで二九年間にわたり西武ライオンズや福岡ダイエーホークスなどでプレーし、二三四勝を挙げた。

僕は大学を出て、社会人でプリンスホテルに入

て、25歳の時にプロになりました。いままで、大学

出て社会人野球出て、二千本安打打った人はいな

いということでした。これはおやじおぶくるの願

いでもありません。プロに入って14年間、必ず一年間

に100本以上のヒットを打っていました。あと二

年やれば二千本に到達するかなと思っていまし

た。その時に西武ライオンズが、監督やれ、選手タ

メという事でした。さてどうしよう。監督要請は嬉

しかったのですが、数字の二千本。いままで成

し遂げた人がいないならやってみたいなと思いま

した。悩んだ結果、現役の道を追い求めまし

た。堤義明オーナーにFAを宣言する報告をさせ

ていただきました。FAの宣言をしたときに、根本

の親父さんから電話が来ました。

「おまえ、西武出んのか。」

と言われました。

「親父とってくれますか。」

「それは分かん。工藤はとる。」

「え、工藤と一緒にとってくださいよ。」

「いやそれはわからん。」

それから一週間して根本の親父が会いに来てく

れました。とってやる、と行ってくれてダイエーホ

ークスに行くことになりました。39歳、40歳と二年

間お世話になったのですが、自分としてはしギョ

ラーとしてゲームに出れると思って行ったら、39

歳のFAの一年目、ほとんどゲームに出られなかつ

たです。今までしギョラーをはっていた人間が出れ

ないと、景色が違ふんです。つまんないんです。とて

も二千本なんて無理だと思いました。それで一年目

終わった時に、親父のとこに相談しに行っ

「親父辞めていいですか。」

「なんや。」

「いや、ゲーム出れないです。つまんないです。」

「球団はなんて言ってるんだ。」

「もう二年やってくれて話してくれています。」

「じゃあやれ。」

「つまんないですよ。」

「辞めたら何すんだ。」

「ネット裏から野球を見て勉強します。」

「みんなそう言うんだお前たち。長嶋・王が立派

な監督だと思っか。」

「思いません。」今は違いますよ、一回笑い

「だな。引退してネット裏からみるのも二つの選

択だ。ただ球団がやれと言っているのであればそ

の機会を利用して、王野球がどういうふうによ

っているのか、そういう観点でベンチから直にみるの

も勉強じゃねえか。そういうことも考えてみる。」

「なんだかんだ納得したのか分かりませんが、

「はい、分かりました。」

その当時二億円もらってたんです。それが一億円

の減俸になりました。50%もの減俸、初めてだつ

たんですよ。その時の記者会見で、若い記者から

「石毛さん、来年40歳ですね。」

「はい。」

「二億から一億に減俸されて、それでもまだ野球

やるんですか。」

「この野郎と思いましたよ。」

「あ、そうかもしれないですね。でもやると決めた

以上、40歳になっても一億円という年俸をもらって

野球ができる。もう一度正面向いて野球をやりたい

いとその覚悟もって来年頑張ります。」

二年目、同じようにゲームに出られませんでした。七月、八月王監督から

「石毛すまんけど、二軍行ってくれるか。」

「いいですよ。大丈夫です。」

二軍の雁の巣という球場があるのですが、めち

やくちや暑いんです。その当時二軍に選手がい

から私が出るんです。監督は古賀さんという方

でした。

「石毛どうする。」

「いや使ってくださいよ。」

「いいのおおまえ、暑さ大丈夫か。」

「大丈夫ですよ。」

僕が40歳でデーゲーム出るわけですよ。そうす

ると、近鉄、オリックス、中日、いろんな対戦チ

ームがきて、35、36歳でベテラン風ふかして、ベンチであ

ぐらかいて見ているわけです。ゲームも出ずに。僕よ

り4、5歳若いですよ。そしたら

「石毛さん、なんで試合出てんですか。こんな

そ暑いなか。」

「うん、俺？五体満足だもん。いまあるのは野球

のおかげだもん。野球のおかげで沢山お金ももらっ

てきた。野球のおかげで良い思い出をつくってきた

た。俺の大親友なんだ。今年おれは引退する。大親

友に不義理をしないで引退したい。お前たち俺より

若いな。球団はそういうところ、見てると思っぞ。あ

る人間が辞める間際どうやってたのか、二軍にい

ても練習もろくすっぽせず、ゲームにも出ず、腕を

組んで野球をみてた。こいつ使えねえなって思っは

ずだぞ。体が丈夫ならゲーム出るべきだ。」

「はい。」

彼らは翌日からゲーム出るようになりました。

16 古賀英彦…一九三九年生まれ。一九六二年読売ジャイアンツに投手として入団。日本人としてアメリカのプロ野球で監督を務めた最初の人物。

17 伊東一雄…一九三四年生まれ。野球解説者、メジャーリーグ評論家。長年、プロ野球ドラフト会議の司会をつとめた。

僕は引退せしき二も何もなく雁の巢で終え
ました。十六年間の現役生活を終えました。

親父の小言

終わつた時に親父に

「終わりました。」

「おう、どうすんだよ。」

「アメリカ行きます。」

「アメリカ？なんだそれ」

「パンチヨ伊東と」

引退したら必ず、アメリカに行つてベースボール
を理解したいと思つた。ベースボールを理解しない
ことには日本の野球を語れないと思つた。彼らと
同じ地に立つて、空気を吸つて生活をすれば、どん
な国民性の上にベースボールがあるのかそれを理
解したいなと思つた。

「寵^{まか}りならな」

「いいじゃないですか。引退したんだから。」

「だめだ。そのかわりダイエーホークスの肩書
名刺をもつて二年間アメリカに行つてこい。」

面倒くさいと思つた。いろいろの節制があつて
窮屈だと思つた。

「お前たちは引退したらフリーになつて好きな
ことやりたいと思つてる。それも一つの生き方だ。
もう一つは、石毛は引退したけど、ダイエーホーク
スを背負つてアメリカで勉強している。これは一つ
の評価になる。」

なるほど、そういうこともあるんだと思つてき
ました。親父つて、今言つても分かんないだろうな
と、いつかを伝えておこう。ある程度人生経験を

経て、親父の小言の如く、頭の中にポツンポツンと
浮かび上がってくるんです。今はうざいと言われ
るかもしれないけど、そういうのは大事だと思
います。

これに付随して言いますと、いま上司の方が部
下に対して「こいつはこういう性格だから、今言つ
てもわからねえだろうからいま言つのはやめて少
しタイミングをずらして後で伝えよう。」という
人がいるかもしれません。この人は神様かと思つ
てしまいます。たかだか、一年二年付き合つたくら
いでその人間の本性がすべて分かるのだろうか。

本性がすべてわかつたふうにして、この子の性格は
こうだから、勝手に決め込んで、あとにしよつと
か、そういう判断はなんで出来るのだろうか。是非
は、是非は非、今大事なことは今伝えておこう。今気
が付くかどうかは別として。大きなお世話かも分
からない。でも大きなお世話をやく、人生の先人た
ちが、先輩たちが、ちょっと少ないのかなと思つ
ます。パワハラになるかもしれない、そんなことを恐
れたらどうすんだと思つますよ。だから人間関係
がどんどん薄くなつていく。つまらない世の中にな
つていくと思つますよ。「コロナ禍、隔離されたよね。
あるのは目と耳だけ、人間のもつ五感の中で、耳と
目だけが、何とか会議とかやつたけど、五感をフル
活用しないと人間の付き合いなんかできないと思
います。みたところ、年寄りの方多いようです
が、どうせどうせその力の限り生きてきたんですから、
俺はこう思うぞ」という哲学を若者や子どもたち、
後輩たちに伝えていくそのエネルギーは持つてほ
しいかなと思つます。根本陸夫はそのエネルギー
の塊でした。そして、われわれは野球というスポー

ツによつて、根本陸夫の教えによつてまつとうに生
きられているわけです。家族以外にこの人の前
で嘘、いつわりは言えない、ごまかしはきかないと
いう心の神様を持つてほしいと思つます。

こういう方々が人生の方向付けをしてくださる
と思つます。この人の前では、嘘偽りは言えない
な、ごまかしはきかないな、家族親戚も大事でしょ
う、其の人以上に人生の神様を持つては人生の方向
付けは行くだろうと思つます。

イースタンリーグと四国アイランドリーグ

根本の親父が、稯介に聞いたところによると、日
本の二軍、イースタンリーグを仙台にもつていき
たい。興行をうちたいと思つたらしいです。さっき
言つたように葛谷さんとアメリカをみてきて、アメ
リカのベースボールの環境、スポーツを通じたま
ちづくり、をみてきているわけです。だから戸
田、浦和、埼玉、横浜を移動するのではなしに、楽
天が仙台が来る前の話ですが、イースタンリーグ
を仙台にもつていって、仙台を中心に東北六県を
まわつていく。そうすると野球振興につながるだ
ろう。そんな想いを持つていたと聞きました。それ
は僕が四国アイランドリーグをつくつた後に聞い
たんです。親父の教えというか、背中をみて育つ
たのだからと思つて嬉しかったです。

四国アイランドリーグの話を見せてもらいま
すね。ダイエーの二軍監督が終つて、九九年〜〇一
年までNHK・スポニチの解説をやつていました。九
七年にアメリカ修行に行かせてもらつて、もう一度
二〇〇〇年にアメリカに行つたんです。それはアメ

18 稯介：根本陸夫の長男。

19 鈴木一朗：一九九二年オリッ
クス入団、二〇〇一年にシア
トルマリナーズに移籍。
PBで最多タイ記録となる
首位打者を7回、MLBで
は史上唯一の10年連続で
200安打以上を達成

20 田口壮：一九九二年オリッ
クス入団、二〇〇一年にセント
ルイスカーディナルズに移籍。
二〇〇六年にワールドシリ
ーズを制覇した初の日本人
となった。

リカのマイナーリーグを見るために。独立リーグ構想があったんです。九三年にJリーグが開幕して、サッカー人口も多くなってきましたが、野球人口も小中高大学とチームは減ってはいない。私たちがお世話になった企業チームはバブルがはじけて減少していく。受け皿がなくなっていく。その時に巷に現れた社会現象がモラルハザード。これはどういふことかかっていうと、若年層のわけの分からぬ事件が多くなつたんです。エネルギーを発散するところがなくなつたわけですよ。僕は九七年にコーチ留学させてもらって、メジャーリーグをみて、マイナーリーグをみた。その横に別資本インデペンデント、独立リーグに日本の若者が体一つ、道具一つで野球にチャレンジをしにくるわけ。金に苦労して、言葉に苦労して、でも野球を続けたという真摯な思いがあって、この若者を日本にとどめておけばいいなと漠然と思つて帰つてき



たわけです。そして〇二年、オリックスの監督の要請を受けました。本当は行きたくなかつた。なんでか、イチローが去り、田口が去り、アリアスが去り、勝てる選手がいない。このときに親父の、根本陸夫の小言が頭に浮かびました。親父はいつも「お前、負ける喧嘩はするな」と言つてました。野球界で言うと、その代表例が田淵さんかと思つました。ダイエーの監督三年間やって、ずっとBクラスでした。そうすると、田淵幸一、監督としての能力がないという烙印が押されるわけです。同級生に星野さん、山本浩二さん。なんかあるとすぐに中日の星野、広島の本山浩二にオフアーが来るわけです。田淵さんは二度とオフアーはありませんでした。たぶんそういう事なんだろうなと思つました。負ける喧嘩を買つて負けたら俺たちは飯を食つていけねえぞ。その親父の小言が浮かんできました。でもやりたいことを優先しようと思つました。堤義明の申出を断つて、ダイエーにいったわけですから。裏切り者と言われました。僕はルールに則つたつもりなんですけどね。二〇〇二年、同時多発テロがありました。今後どうなるか分からないな。好きなことしよう。親父すまん、負ける喧嘩買つてきますわ、といつていきました。すぐ負けました。三年契約、一年四カ月でクビです。でも一年八カ月分の給料は、あぶく銭が残つたわけです。それを原資にして二〇〇五年から構想を出して、四国アイランドリーグを立ち上げさせていただきました。アメリカのマイナースポーツを例にとるように、マイナースポーツが地方に根付くことによつて、人と金の流れが作れるだろう。地方の活性化につながるだろう、われわれが野球界の仲間、そのセカンドキ

ヤリアの形成も図れるだろう。そしてストップ・ザ・モラルハザードになるかな。親父からのルーツがあったのかなと思つました。いま二十年経ちました。はじめは、押揃や揃されました。いままで、高校・大学・社会人。ドラフトで三割・三割・三割指名されました。最近のドラフト独立リーグが入つて、二割五分、二割五分、二割五分、二割五分、20人前後の若者がNPBに入つてくれるようになったんです。俺たちの狙いは間違いでなかつたかなと思つます。プロ野球を終わつた人間が指導者として、あるいは選手として、藤川もそうでしたよね。野球界の受け皿的になつたのかな。でもまだまだ中途半端です。プロからアマチュア、アマチュアからはプロとみられている中途半端な、でも野球界の枠組みには入つてきたかなと思つています。

根本陸夫はどんなことを考えて生きていたのでしょうか。いま生きていたら百歳です。百歳の根本陸夫の頭の中知りたいな。この話をいただいてから、自分を振り返ると同時に、根本陸夫はどうしていたのだろうか、親父の小言を感じながら、いま百歳まで頑張つてみようかと思つています。

今日は根本陸夫の御縁をいただいて、これだけの方々が、日曜日で暇なんだなと思つましたけども、(同笑い)
私の親父の根本陸夫の話をさせていただきました。ありがとございしました。

21ジョージ・アリアス：二〇〇〇年にオリックスに入団し、二六本塁打、翌年三八本塁打と活躍し、二〇〇二年に阪神タイガースへ移籍。



根本陸夫の野球理論では、スローイングが重視されていたという。石毛宏典氏による実践の様子



石毛宏典氏サイン抽選会の様子

村内で活躍する「まる博研究員」からの報告です！

まる博研究員とは？

約1年間の養成講座を修了し、歴史と未来の交流館を拠点に地域の歴史や自然に関心を持ち調査・研究・情報発信を行っている方々です。

レポート 1

内宿の農耕用牛馬の供養碑について

まる博研究員 佐藤 寿人

内宿一区の畑の中(幸の実こども園の北側)にぼつんと牛馬供養碑が立っています。それは、農耕用に飼われていた牛や馬の供養のために昭和8年2月に建てられたものです。

明治から昭和初期には、農耕や運搬に牛や馬が欠かせないものでした。これらの牛や馬は愛情をもって大切に扱われ、多くの農家では家の中で飼っていたようです。私も祖父等から幼いころに「家の中で馬を飼っていた」ことを聞かされていました。

牛や馬が死んだ際には、集落から少し離れた場所に埋葬してきました。この場所が大正13年1月には当時の石神村の所有地になっていることが登記簿で確認できます。その後、「石神村牛馬持一同」によって高さ3メートルの石灰岩の供養碑が建てられました。全国的にも、同じ趣旨で馬力神や馬頭観音が数多く建てられていたようです。



裏側には寄付した人たちの名前が刻まれています。今では経年劣化でほとんど読めない状態です。また、土台が老朽化で一部崩れ落ちている状態でしたので、令和6年3月に自前で補強工事を行いました。この供養碑は先人たちが思いを込めて建てたものであり、地域の歴史的遺産でもあることから、後世にも未永く残ってほしいと思います。

レポート 2

身近な森に眠る「前方後方墳」 (真崎古墳群第5号墳)

まる博研究員 隈 茂子

私たちが暮らすこの地域に、古墳時代の営みを今に伝える古墳群があることをご存知でしょうか。

真崎古墳群は、小高い森の中に8基の古墳が隣り合うように静かに残されている場所です。その中の一基、第5号墳が「前方後方墳」と呼ばれる形をしていることを知り、私はこの古墳群に興味を持ちました。

「前方後方墳」は、前も後ろも四角い形をした古墳で、全国的に見ても数が少なく、古墳時代の比較的早い時期(四世紀頃)に造られたものが多いとされています。円形の古墳や前方後円墳という言葉は耳にする機会がありますが、「前方後方墳」という名称にはどこか聞きなれない響きがあり、その珍しさがかえって印象に残りました。

実際に現地を訪れると、そこは特別な遺跡というより、普段から人が散策する静かな森でした。足元には落ち葉が積もり、木々の間を歩いていると、ここに古墳があることを知らなければ通り過ぎてしまいそうです。それほど自然の中に溶け込んでいます。

第5号墳の調査報告書は専門的で難解ですが、測量や発掘の記録からは、限られた範囲で慎重に調査が行われたことが分かります。「壊さず、残しながら確かめる」という姿勢は、この古墳の価値を物語っているように思えました。

埋葬施設の存在も確認され、この場所が確かに人を葬るために築かれた古墳であることが裏付けられています。

古墳は専門家だけの研究対象ではありません。地域に暮らす私たちが遠い昔を身近に感じられる場所でもあります。真崎古墳群をはじめ、東海村に点在する古墳や周辺の地形をゆっくり歩いて巡る散策マップがあれば、より多くの人が古代のロマンに触れる機会になるのではないのでしょうか。歴史と未来の交流館の学芸



員の方々と相談しながら「東海村の古墳・遺跡のロマンをゆっくり歩いて巡る散策マップ」ができればと願っています。

レポート 3

石神城見学

まる博研究員講座は令和7年9月10日東海村中世の城めぐり石神城跡の見学を行いました。石神城跡の広さは、約4万平方メートルで、I郭（遠見城）、II郭（御城）、III郭から構成されていた。資料によると、永享4年（1432）頃の石神小野崎氏が築城したと言われ、約160年間にわたって続いた。

まる博研究員 小野瀬 秀夫

いた。城跡は保存状態も良く、深い堀や周りを巡る土塁など当時の面影が残っていました。石神小野崎氏の経緯がIII郭広場の案内板に書かれています。

IV郭とされるところはその周辺には現在住宅が建ち、田園風景も見られて静かな環境となっていた。

なお、石神城跡は、平成29年（2017）12月茨城県指定史跡に指定されています。

レポート 4

東海村の絆と繁栄

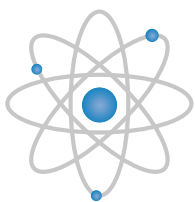
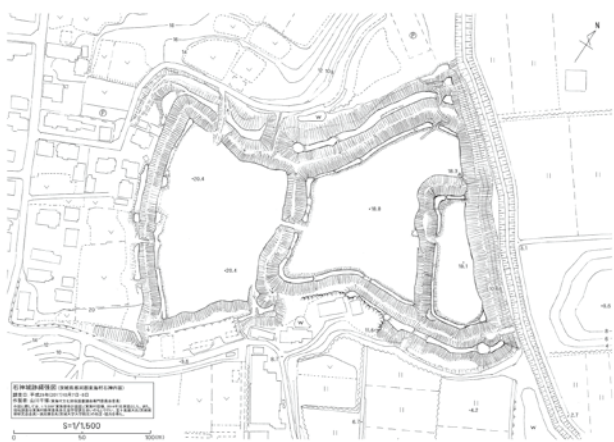
まる博研究員 平田 利明

東海村が村松村と石神村と言われた昭和10年当時、無医村だった村松村に医者があることを条件に結核の療養所として晴風荘の受入れを決めた。又受け入れることにより関連施設ができ雇用も増加した。更に、医療関係者の家族や子どもたちが一緒に過ごし学ぶことで教育面の向上も期待したが、村の教育環境が不十分で子どもたちは水戸へ行ってしまい、この部分での思惑は外れた。

次は東海村成立翌年の昭和31年の原子力研究所誘致だった。当時マスコミ

をはじめ住民の大部分は賛成だったので誘致を決定した。研究所設置後関連施設の設置や道路、上下水道等が次々と整備された。その中で村長は転入者と村民の融合が必要と考え、子どもが交流すれば親が交流すると判断し、小学校の環境整備として各学校にプールと体育館の整備を進めた。又転入者と村民が同じ学校に通えるように新しく作る社宅や団地は村内に分散するように依頼した。そのため村内各小学校に分散されるように各事業所の住宅等が設置された。

このような活動により昭和30年に一万一千人の村民が昭和57年には三万人を突破した。当時誘致を判断した村長は「誘致により財政とか生活環境の向上とか言われるが、本当に良かった事は、転入者と住民が一つになれる人間関係が構築できたこと」と振り返っていた。



「化石らの黙と対話する」

歴史と未来の交流館では、「シエリーのネイチャーラボ」と題して東海村の自然に関する講座を実施している。本通信では、講座で取り上げた内容や担当学芸員の研究について、ゆるく楽しく、筆者の考えたことをエッセイとしてお届けする。

「黙(もだ)」…だまっていること。
静かにしていること。
(出典:Weblio辞書)

筆者の専門は、古生物学という学問だ。その名の通り、人類が文明を築く前の古い時代を生きた、いにしえの生きものたちに関して研究する学問の総称で、生きものの化石を扱う研究もあれば、生きものがつけた生活の痕跡(足跡、巣穴など)を解き明かす研究もあるし、化石に残存する成分を解析して食べていたものや暮らしした場所を推定する研究もある。

しかし、古生物学のどんな研究においても共通していることがある。絶滅した生きものや、生きものの遺

骸が化石となったものを扱う以上、彼らはいつも『沈黙を買い替えている』ということだ。すでに命の尽きたモノたちなのだ、当然である。だが、この沈黙こそ、彼ら化石たちを謎に包み、まだ見ぬ多大な可能性を包含しているのだ。つまるところ、われわれ古生物学者というのは、その『黙』を読み解き、その中に隠された化石らの声なき声を聞く、そういうことをあの手この手でやっている。

化石はどこから出てくる?

そもそも、化石というのは、生物の遺骸や生活の痕跡などが土砂に埋もれ、長い年月を経て地層の中に保存されたものである。したがって、化石は大抵「地層」という土砂の堆積構造の中から発見される。東海村にはいくつが異なる時代の地層が分布しているが、その中でも特に化石がたくさん見つかるのは、通称「村松層」である。



化石発掘体験の様子。地層を掘って化石を探す。

村松層は、今から約460万年前〜258万年前の時代に堆積した地層だ(年代については、ざっくりと「約300万年前」とお伝えすることが多い)。このころ、東海村は深海底にできた谷の地形の途中にあつた。この海底谷の時代、海底では頻りに土砂崩れが起こっていたよう[※]で、そのたびに土砂に混じった有機物[※]が海底谷に供給され、東海村はいわば「砂漠の中のオアシス」状態であったことが産出する化石から伺

える。光が届きにくい深海では光合成をする植物プランクトンや藻類が生息できないため、一般的に深海は食べるものに乏しく、生きものが少ない環境になりやすい。そのような深海底にあってなお、この地層からは多くの化石が見つかる。

では、村松層から見つかる化石はすべて深海の生きものなのか?これについても補足したい。化石には「生きていたその場所で土砂に埋まったもの(現地性)」と、「本来生きていた場所から流されたり運ばれたりした先で土砂に埋まったもの(異地性)」の2タイプが存在する。村松層からはこの両方のタイプが見つかっている。

たとえば、村松層からはトウカイシラスナガイという二枚貝が大量に見つかっているが、彼らのうちの一部は、生きているときの姿勢のまま、つまり、二枚の殻をびったり閉じた状態で発掘される。この「生き埋め」状態がはっきり分かる化石は、現地性の化石である。また、考えてみれば当然の道理ではあるが、生きものの生活の痕跡が化石になったもの(足跡が代表的な例である)は、ほとんどの場合が現地性の化石である。



トウカイシラスナガイの化石。
横から見ると2枚の貝がらが閉じた状態。



ホホジロザメの歯の化石。どの歯も歯の根本の部分が壊れている。
海底で起こった土砂崩れにもまれたと考えられる。

一方で、村松層の一部に見られる土砂崩れの堆積構造からはサメの歯が発掘された。掘り起こされたサメたちのほとんどは浅い海で暮らすことが判明している上に、土砂崩れに運ばれている間に歯の一部が欠けたり割れたり、土砂に揉まれたことがよくわかる状態だ。深海の地層でこのような化石が見つかる、これは異地性の化石であると判断できる。このように、化石がどこから、どんな状態で発見されたかというところだけでも、もの言わぬ化石から情報を読み取れるのである。

目に見えるモノ、見えないモノ

化石、と一口に言っても、さまざまな種類がある。まずは体化石が有名だろう。これは一般的に「化石」といった際に真っ先に思い浮かぶもので、生物の体の一部ないしは全部が保存されたものである。体化石として残りやすいのは骨や歯などの硬い組織だが、条件が良ければ軟組織の形やその成分が保存されることもある。次に話題に上がりやすいのは、足跡、這い跡、食事の痕などの生活の痕跡が化石になったもので、生痕化石と呼ばれる。これは目が肥えていないとなかなか判別が難しく、筆者も古生物初心者の学生だった頃は「これって堆積構造※2だとか、そういう模様じゃないの?!」と何度も躓いたものである。

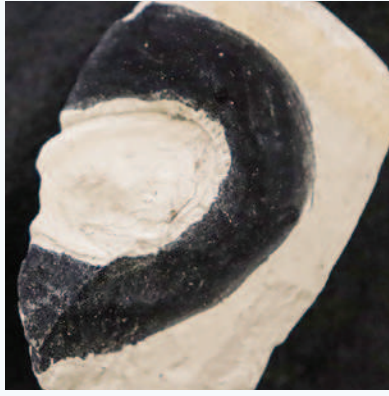
目に見える化石、目が肥えていれば見える化石があるなら、当然、目には見えない化石というのも存在する。その代名詞が微化石だ。これは、顕微鏡を使わないと発見・判別が難しいミクロな化石のことで、目には見えないプランクトンだとか、生物の体のうち小さな部品（うるこや小さな骨格、花粉などが挙げられる）などの化石は一般的にそのよう

に呼ばれる。微化石は、観察のための装備がないと簡単には見られないことから、なかなか話題に上がりづらいのだが、令和7年の夏、微化石に焦点を当ててみようと考え、特別企画展のコーナーを一つ使って展示を作ってみた。

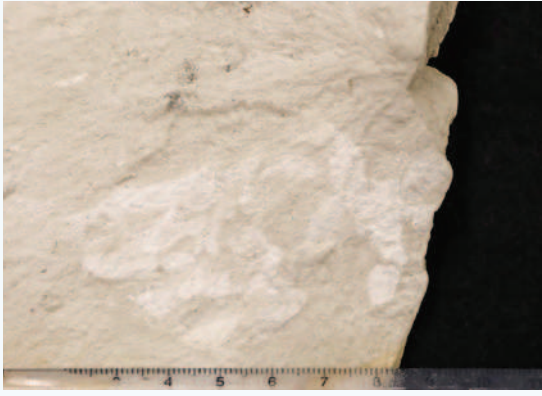
この展示は、発足から70周年となった東海村の様々な時代に時空列車で旅をし、立ち寄った先で途中下車する、というコンセプトのもと制作された。その中で、筆者が取り上げたのは、「新川層」という地層が堆積した、約1100万年前の化石たちである。この地層は、現在東海村に分布が知られる地層の中で最も古い時代にできたもので、肉眼で見える大きさの化石は少ないのだが、微化石がたくさん観察できるのである。村政70周年の節目を象徴する企画展で、「最古参」の地層をぜひ紹介したい、という気持ちもあった。

普段は目に見える化石を専門にしている筆者にとって、これはある意味チャレンジであった。というのも、普段私たちが化石の展示を見るとき、それは大抵、体化石だとか、生痕化石だとか、とにかく肉眼で見える大きさの化石なのである。微化石っていったいどう展示すればいいんだ？と、しばらく頭を悩ませた

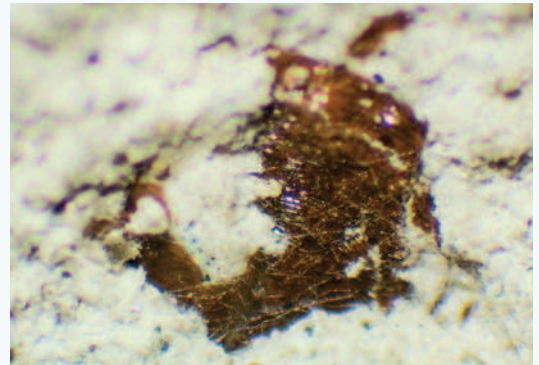
末、今回の展示では、顕微鏡を2台設置して、自分で微化石を探して観察してもらうことにした。顕微鏡を使った展示は、大ウケという感じではなかったと思うが、やはり一部の来館者には刺さったようで、日を変えて何度も顕微鏡を覗きに來る方もいた。



新川層から産出したリウグウハゴロモガイ。体化石の例である。



新川層から産出したアンコニクヌスの化石。生痕化石の一種である。



新川層から産出した魚のうろこの化石。大きさは1mmにも満たず、微化石と呼ばれるサイズである。

足もとを知るには視野を広く

ところで、東海村の化石についてここまで色々分かってきているが、歴史と未来の交流館では東海村の周辺地域から採集した化石も所蔵している。時おり、そのような化石を紹介すると、決まってこのような質問が寄せられる。

「シェリー先生、交流館は東海村のことを調べているのに、どうして東海村じゃない場所の化石も持っているの？」

この手の質問は、来館者の素朴な疑問から来るものだが、実はとても良い質問である。実際、歴史と未来の交流館は東海村の郷土を理解する

ために設置された博物館だ。では、交流館では東海村のことだけを研究していればよいのだろうか？

答えはNOである。残念ながら、いくら東海村が大好きでも、東海村のことだけ見ていけば郷土理解が深まるわけではない。郷土とかいを深く理解したいなら、どうしても他の地域との比較が必要になる。これは

自然分野だけではなく、他の研究分野にも同じことが言えるだろう。また、自然分野に関してもう少し補足すると、自然というのは私たち人間が決めた市町村境界だとか、時間の区切りだとか、そういったものは一切切気にも留めていない。私たちの考える枠組みに思うように嵌って

くれないのが自然の常なのである。鳥は市町村を問わず好きなところに飛んでいるし、台風や地震に「せめて通勤ラッシュを避けてほしい」なんて言ったところで通じるわけがない。このような事情から、郷土の自然について理解しようとする、必ず市町村境界などの枠組みからはみ出ながら研究をすることになる。

そういうわけで、先ほどの来館者の質問に答えよう。「東海村についてより深く理解するために、東海村の周辺地域や、東海村以外でも起こっている出来事についても分かっ

ている必要があるから、東海村じゃない場所の資料も集めることがある」のである。足元を知りたいなら、視野は広く。ただし、足元を見失わない程度に。この教えは、筆者が学芸員になるために学んでいたころ、古生物学者になるために学んでいたころに、先達たちの背中から学んだことでもある。

さて、そういった事情から、筆者は東海村から少し足を延ばして調査を行うことがある。その一環で思わぬ発見があったのが、北茨城から産出したとある化石の調査であった。件の標本は、当初、「カイギユウ^{※3}の化石ではないか」と持ち込みがあり、交流館に寄贈された。その化石は約1660万年前の北茨城市の地層から発見されたもののだが、東海村の村松層と似たような堆積環境で、海底谷の一部で堆積したことが分かっている。その周辺からは村松層と同じくたくさん化石が見つかること、東海村との比較のため、現地調査と合わせて化石標本を調査した。

最初、「カイギユウかもしれない」という期待もあって、うきうきしながら化石を確認していた筆者であるが、一通りの実見のあと、これは違うかもしれない、とちょっと肩を落

化石らの黙と対話する

とした。大きめの海生哺乳類※4なのだと思いが、以前見たことがあるクジラとも違うし、鯨脚類※5でもなさそう。うーん、何だろうか。困った末、筆者が修士課程のころお世話になっていた先生に見せてみたところ、「デスモスチルス※6」という絶滅した海生哺乳類であることが判明した。令和7年10月末から令和8年1月12日まで、展示室2で紹介したのでご覧になった方もいるかもしれないが、地域的にも世界的にも貴重な化石であることが判明したため、この標本については現在論文化を進めている。近日中に続報をお伝えできればと奮闘中だ。



北茨城市から産出したデスモスチルスの化石。後頭部が残っている。

筆者は古生物学者としてはまだまだ駆け出しの部類である。それゆえ、ベテランの先達たちのように化石たちとの対話の経験値があるわけではない。研究をするとき、成果を皆さんにお伝えするときはいつも、対話と試行錯誤の繰り返しだ。

例えば、化石のクリーニング。

化石のまわりに付着している岩を取り除いていく作業だが、岩を削る力の強いエアチゼル※7か、弱めのエアチゼルかを適切に選べるようになるには、その場所の化石を継続的にクリーニングして、手でその感覚を覚える必要がある（これは筆者の場合なので、もっと経験豊富な方は一発で調整ができる場合もある）。岩石を取り除いたあとも、化石が割れないように保護剤を塗布するが、どの薬剤が適切か、濃度はどのくらい薄めるか、などなど、根気強く化石と向き合うからこそ体で理解できることもある。これからも東海村の化石たちをより深く理解するため、黙々と化石と向き合い続けたい。



化石クリーニングの様子。専用の工具で岩を取り除く。

化石らは語らない。ただ、化石として残るに至った経緯のまま、そこに在るだけだ。命の尽きたモノたちだが、その沈黙には多くの情報が今も秘められている。かれらが物言わぬ時、何者が明かされない時、そんな時でも、この世界に存在した何者かであったということに惹かれて、私たちはかれらにモノを聞く。かれらは答えない。どこからも答えは聞かえてこない。それでも、かれらの遺した息づかいから、少しずつ、少しずつ、私たちはかれらのメッセージを受け取るのだ。筆者はこれを『化石らの黙と対話する』と形容している。

筆者の最近の夢は、東海村で海生哺乳類（それがカイギュウだったらもっと嬉しい）の化石を発掘することだ。海生哺乳類の化石が産出するとなると、村松層が最も可能性が高く、次いで新川層だと考える。海生哺乳類は、海中に棲む生きものたちの中では、どちらかというと「捕食する側」だとか「捕食されない側」であるので、他の海生生物と比べると単位面積あたりの個体数が少なくなりやすい。つまり、ちょっとレアキャラということである。同時に、その存在が少しレアだからこそ、化石が見つければより多くの情報を集められると筆者は考える。東海村から発見された海生哺乳類の化石では、トウカイイクジラ※8と呼ばれているヒゲクジラのなかまが村松層から見つかったことが知られているが、他にも海生哺乳類の化石が見つかる可能性は十分にある。かれらを発見した時、地層から掘り出したとき、どんな黙と対話できるか、とても楽しみである。

シエリーのネイチャーラボを実施するにあたり、すべての回において、素晴らしい同僚の皆様と、興味いっぱい参加者の皆様にたくさん助けられ、たくさんモチベーション

をいただいた。末筆ながら、心からの感謝を申し上げたい。来年度もまた、乞うご期待。

(シエリーこと 学芸員 伊理美智子)

【用語解説】

※1 有機物

炭素を含む物質全般を指す言葉だが、古生物学においてはよく「生物由来の物質」を指す。生物の排泄物、生物の遺骸などは、他の生物にとっては命をつなぐ食糧源である。

※2 堆積構造

地層の中に見られる特徴的な模様や形状のこと。堆積構造を正しく読み解けば、その地層がどのような環境で降り積もったのか判別できたり、過去に起こった気象イベントや災害の痕跡を見つけたたりできる。

※3 カイギュウ

海生哺乳類の一種で、ジユゴンやマナティーを含むグループ。見た目はクジラに似ているが、クジラとは異なり草食性である。筆者はカイギュウの化石

※4 海生哺乳類

が専門であるので、「カイギュウかもしれない化石が持ち込まれる」と聞いて大変ウキウキしていた。普段の生活の一部または全部で、水中を生活の場所として使うことができるように進化した哺乳類のこと。鯨類(クジラ・イルカ全般)・鰭脚類(アシカ・アザラシ・トド・セイウチなど)・カイギュウ類(ジユゴン・マナティーなど)などのほか、ホッキョクグマ・ラッコ・カワウソなどが知られる。絶滅した動物だと束柱目(デスマスチルスなど)も海生哺乳類である。

※5 鰭脚類

アシカ・アザラシ・トド・セイウチ・オットセイなどのなかまのこと。

※6 デスマスチルス

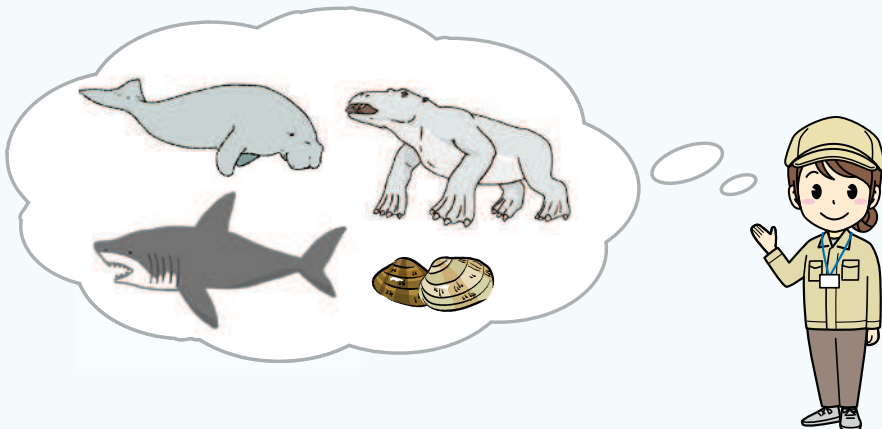
束柱目という絶滅した海生哺乳類のグループの一種。北太平洋沿岸域からのみ化石が見つかっている。近縁な種は現代に生き残っていないため、未だ多くの謎が残る生物。

※7 エアチゼル

化石をクリーニングするための道具で、原理と見た目は歯医者さんで歯石を削る機械と一緒にある。圧縮された空気の力を使って、少しずつ化石のまわりの岩石を吹き飛ばしていく。

※8 トウカイクジラ

1986年に発掘されたヒゲクジラ類のなかま。現在はミュージアムパーク茨城県自然博物館に収蔵されている。発見当時は茨城県内で初めてのヒゲクジラの化石として注目を浴びた。



発見された巨大な堀の正体は？

石神城の謎にせまる

皆さんは東海村の石神城跡を訪れたことがありますか。

石神城跡は村北部の石神内宿地内に位置し、標高19m、比高15mの台地の先端に立地しています(図1)。城として機能していた頃はその東端下に久慈川(旧流路)が流れ、川の要害機能と水運機能を利用した平山城でした。石神城は中世の時代には佐竹氏との関係が深い石神小野崎氏が拠点とし、廃城から約400年が経った今もその堂々たる姿を残す貴重な城跡です。

写真1は「歩く博物館城めぐり」(令和7年12月)の様子です。当日は石神城中心部の重要な曲輪(I~III郭)を散策し、中世の城の特徴についてお話ししました。石神城跡の魅力の一つは県内屈指の良好な保存状態であることで、現地を訪れば大迫力の堀や土塁を間近で

見ることができま

さて、内郭とも呼ばれるI~III郭は現在、石神城址公園として地域の憩いの場となっているため、ここが「お城」だと思っている方も多いかもしれません。しかし、本来の城の範囲は思っている以上に広大で、内郭



写真1 城めぐりの様子(石神城の堀の中)

の外側には城下町が築かれたと考えられるIV・V郭(外郭)が広がっています。こうした城の構造を「惣構え」と呼んでいます。

実は今から5年前、石神城址公園から南西へ約500m離れた石神コミユニティーセンター(以下「石神コミセン」)での工事中、石神城のものと考えられる巨大な堀が発見されました(図1)。そこで、今回は発掘調査の成果や古い測量図などを手掛かりにこの堀の正体を紐解きましよう。

巨大堀の発見

令和2年9月、石神コミセン内で実施された災害用トイレ設置工事の際、巨大な堀の一部が地中から姿を現しました。発掘調査の結果、この堀はコミセン西側を走る村道と同じ方向に真っ直ぐ掘られていることが分かりました。

ここで注目すべきは、幅約7.5m、深さ約2.6mを測る巨大な堀ということ(写真2)。その規模や形から考えると、これが防御の役割を果たした堀であることは間違いありません。



図1 石神城跡と堀発見地の位置関係 (国土地理院2.5万分1地形図「常陸久慈」(平成20年発行)に加筆・作成)

ん。部分的な発掘調査であったため、堀の全体像は不明でしたが、実はその正体にせまる重要な証拠が発見されました。

よみがえる堀の姿

図2の赤枠内に注目すると、青線で示した昭和31年(1956)作図の測量図には、現在の原電通りの石神コミ



写真2 堀発掘の様子(左は西から、右は東から撮影)

セン入口付近から北西方向に真っ直ぐ延びる堀と土塁が記されています。そして、今回の堀発見地(★地点)はこの範囲に重なるため、発見された堀が測量図に描かれた堀の一部であることが分かったのです。また、この土塁は堀の東側に位置しているため、西側からの侵入を防ぐことを意識して造られています。では、堀と土塁の東側には守るべき大切な何かがあったのでしょうか。

図2に記された字名を見ると、堀と土塁の東側は「堀ノ内」、西側は「二ノ堀」と呼ばれています。字名はその土地の歴史を知る上で重要な手掛かりとなり、「堀ノ内」などの名称は付近に城や館があったこと由来する可能性があります。実際に堀発見地の付近は石神城中心部(I~III郭)の南西にあり、城下町があったと考えられる外郭の範囲に位置しています。つまり、「堀ノ内」を含む堀の東側が石神城の内側だとすると、その境に位置する堀と土塁は敵の侵攻から城とその城下町を守るためのものと捉えることができます。ちなみに城中心部(I~III郭)を見ると、II郭が「本城」、III郭が「城内」と呼ばれており、ここにも

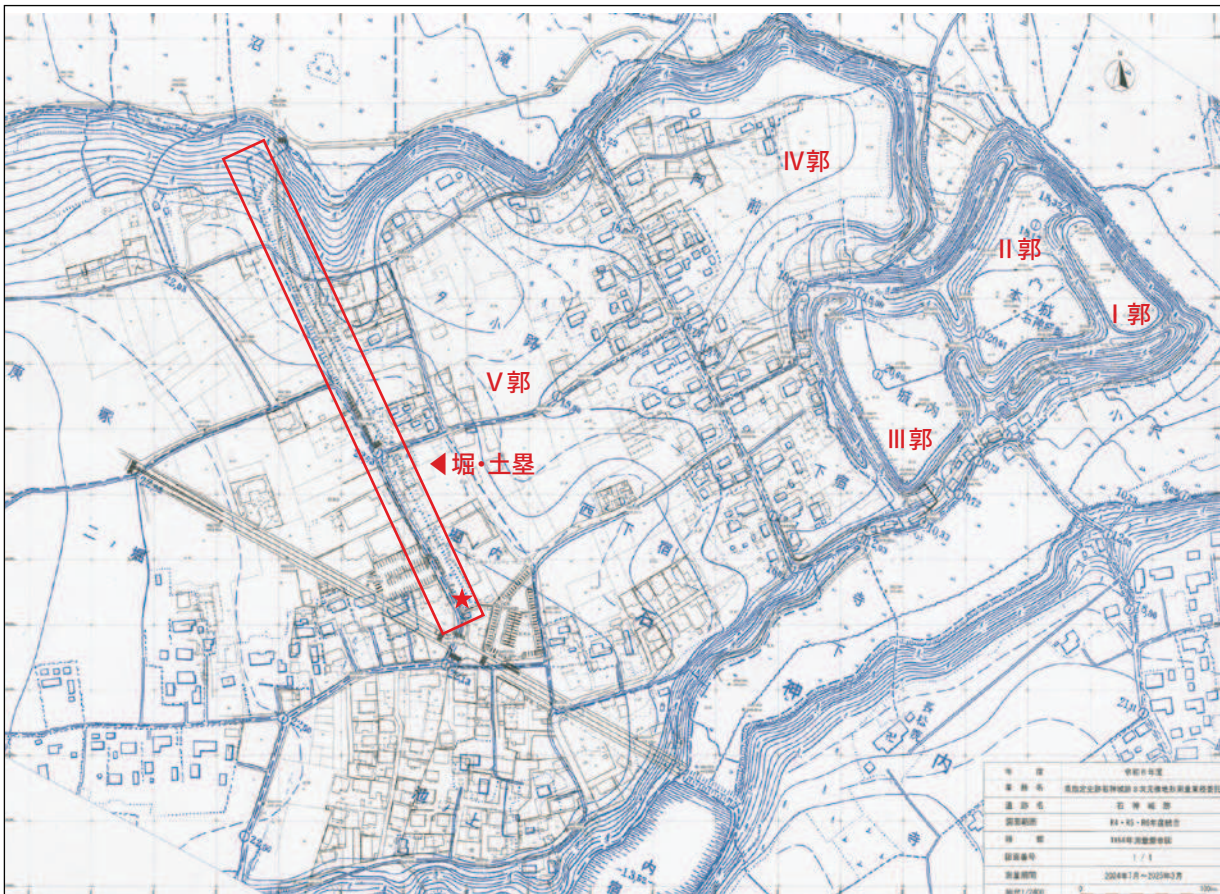


図2 1956年測量整合図(有限会社三井考測作成) 縮尺1/6000



写真3 1983年のV郭堀・土塁の様子（北から）



写真4 2025年の写真3地点の様子（北から）



写真5 1983年のV郭堀・土塁の様子（南から）



写真6 2025年の写真5地点の様子（南から）

字名と城との関わりを見ることができません。

古い測量図や字名をヒントに堀の正体にせまりましたが、最後に石神コミセン建設前に撮影された堀発見地の写真を紹介します。昭和58年(1983)3月撮影の写真3・5には、村道に沿って堀と土塁が存在していた様子が記録されていました。現在はここに石神コミセンが建っています(写真4・6)。堀は後世の土砂

の流入などにより埋没し、造られた頃よりも浅くなっていますが、写真5に写る測量用ポールから推測すると、撮影時の堀底は村道の高さから2mほど深いことが分かります。また、土塁の天端は堀底から推定4mほど高い位置にあるため、石神城の時代には相当に深い堀であったと考えられます。

残念ながら現在の土塁は、タン小路の宅地内に一部残るのみですが、

令和2年の聞き取りでは30年以上前はこの宅地内の土塁や堀が石神コミセン付近まで続いていたとの証言を得ており、古い写真のような光景が人々の記憶に鮮明に残されていたことが伺えます。そして、私たちが何気なく通る道路の地下には、戦乱の世に石神城を幾度となく救ったであろう巨大堀が今も眠り続けているのです。

東海村では現在、石神城跡の文化

財としての価値を高めるための測量調査と発掘調査を行なっています。令和5年度から開始した城中心部(I・II郭)の発掘調査では、城の謎にせまる新たな成果も得られています。ぜひ石神城の今後の動向に注目ください。なお、発掘成果の概要は『東海村歴史と未来の交流館研究紀要 Vol.6』(令和8年3月)を参照ください。

(学芸員 中泉 雄太)

博物館長と歩く 植物観察会



写真撮影と植物メモ

まる博研究員

案内 交流館

山本美恵子
鶴 みるみ子
立川 義雄
島根 栄
安嶋 隆

1 はじめに

博物館長と歩く植物観察会は「交流館周辺や村内各地を歩いて植物を観察し、身近な自然環境に親しみ、郷土理解を深める」ことを目標に、毎月第3土曜日の午前9時から11時に実施した。

2 観察会で心がけたこと

① 「植物に親しむ」こと。気になった植物や疑問に思ったことを聞いたり、お互いに教えあったり、あるいは雑談をしながら植物とともに親しむ。そして全員が参加者の一人であることを意識する。

② 「五感」を使うこと。

- ▼ 目で観て、葉の形態や花の構造を観察してみる。
- ▼ 噛んでみて、果実の味や茎の苦みを感じる。
- ▼ 手の感触で葉や茎のざらつきや毛の生え方を感じる
- ▼ 嗅いでみて、花や葉の臭いの違いを感じる。
- ▼ 時には耳を澄まして、草や木のそよぐ音に注意してみる。
- ③ 植物を知るのは歴史、民俗などを学ぶことに通じている。
- ▼ 植物名の由来や花のつくりを知ると先人たちの生活や人と植物の関わり合いが思い浮ぶ。
- ▼ 先人は食用、薬草、生活用具など、植物を日常生活の中でごく普通に利用していた。
- ▼ 野外での観察から先人の生活の知恵を学んでみよう。



3 各月の観察内容と記録

● 4月19日(土) 虫こぶトーク(企画展「虫こぶく奇妙で不思議な秘密の隠れ家」)

(1) コース 交流館

(2) 観察内容

- ・ 虫こぶってなに、名前のつけ方、研究の歴史、代表的な虫こぶ、古文書と虫こぶ、牧野図鑑と虫こぶ
- ・ 展示した虫こぶ
- アオキミフクレフシ、イスノキハコタマフシ、イスノキエダチャイロオオタマフシ、イスノキエダナガタマフシ、イヌツゲメタマフシ、イノコズチクキマルズイフシ、エゴノネコアシ、エノキハツノフシ、カラスウリクキフクレフシキカラス



▲ 観察の様子

● 5月17日(土) 雑木林の植物

(1) コース 押延いこいの森(当日は雨のため交流館)

(2) 観察内容

・ 雑木林って?…クヌギやコナラなどの広葉樹で構成された、人工的・意図的に作られた林(人工林)のこと。広義には人里周辺の入りやすい林の意を含み、里山と等しく用いられることもある。クヌギやコナラは燃料薪として繁用された樹木であり、エネルギー革命で石炭や石油が主要エネルギー源となる以前は、雑木林が貴重な燃料材生産の場であった。シイタケなどの原木栽培に使う榎木(ほだぎ)としても利用された。これらの木は伐採しても切株から芽ぶいて再生し(萌芽更新)、数年で再利用できる太さまで成長する。

・管理された林と放棄された林の違い…管理された林は低木類がなく、草本類が目立ち、放棄された林はシダ植物や常緑樹の低木類が目立つ。



▲放置された林



▲管理された林

・オニタビラコとカラスピシヤクの話…花期の違いにより2種類がある。
・カラスピシヤクの花のつくり

●6月21日(土) 堤防の植物

(1)コース 新川沿い

(2)観察内容

・堤防付近は外来植物と雑草類で覆われている。

・チチコグサ類の区別…ハハコグサ、チチコグサ、ウラジロチチコグサ、セイタカハハコグサ、ウスベニチチコグサ、タチチチコグサ、チチコグサモドキ、ギシギシ類の区別…スイバ、ギシギシ、ヒメスイバ、エゾノギシギシ、ナガバギシギシ、コギシギシ。



▲観察の様子

●7月19日(土) 水路の植物

(1)コース 石神外宿

(2)観察内容

・水路は、農業用灌漑や上水道、工業用水道などのために水を引く目的で造られた水路。水路構造は、コンクリート三面張りや二面張り、石積み水路などに区分される。



・コンクリート二面張り…護岸は両岸ともコンクリートやブロック積みで魚の住処になるような穴やくぼみなどがない。水路底は土で、魚や貝が潜り込むことができる。水草などが生育している。
・その他…ミクリの仲間、ウルシの仲間、サツマイモの花、ノカンゾウとヤブカンゾウ、ニワウルシの観察。

●8月16日(土) 植物図鑑の使い方

(1)場所 中央公民館

(2)観察内容 植物図鑑の使い方

・現地で聞く↓指導者から直接名前を教えてもらい、後に図鑑などで確認する。似た種類の項目をみながら同じ仲間の種類もわかるようになる。
・スマホ(アプリ)で調べる↓とりあえず名前は出てくるが、その名前が正しいかどうかはわからない。一時的に名前がわかるので便利。関連の植物を知ることには発展しない。

・図鑑で調べる↓科名の見当がつくようになると図鑑の素晴らしさがわかってくる。
・検索表を使う↓生物の種などの分類群を同定する際に補助とするためのもので、普通は文章で示される二者択一の選択肢を選んで行けば、分類群を特定できるようになっている。

・以下のシダ植物を図鑑の図と比較した。
イヌカタヒバ、クラマゴケ、ゼンマイ、イヌシダ、ワラビ、オオバノイノモトソウ、トランオシダ、リョウメンシダ、ヤマイタチシダ、オシダ、ベニシダ、クマワラビ、ホソバナライシダ、アイアスカイノデ、イノデ、ミゾシダ、ホシダ、ゲジゲジシダ、ハリガネワラビ、ヤワラシダ、ヒメシダ、イヌワラビ、ヘビノネゴザ、シケシダ、キヨタキシダ、クサソテツ、コウヤワラビ。



▲観察の様子



▲観察の様子

● 9月20日(土) クロマツ林の植物

- (1) コース 豊岡なぎさの森
(2) 観察内容

・管理されたクロマツ林と放置されたクロマツ林の構成植物の違い。



▲放置された林
ヤマウルシ、アオキなど低木類が目立つ



▲管理された林
低木類はなく、草木類が目立つ



▲観察の様子

● 10月18日(土) イネ科植物を見分ける

- (1) コース 交流館周辺

- (2) 観察内容 イネ科植物の見分け方ポイント

- ① 葉の形状と特徴：葉は細く、葉の付け根部分が茎を取り巻いて鞘状（葉鞘）になっている。葉耳（ようじ）や葉舌（ようぜつ）の有無、葉脈の形状。
- ② 茎の構造と高さ：茎の根元が扁平か丸いか。
- ③ 花の形状と開花時期：穂状花序を形成し、茎の先端に集まって咲くのが特徴。花（小穂）の色や開花時期も種類によって異なります。
- ④ 種子の形状と散布方法：種子の形状や散布方法。
- ⑤ 具体的なイネ科…スズメノカタビラ、メヒシバ、オヒシバ、チガヤは手始め。
- ⑥ 花の構造



● 11月15日(土) 落葉樹を見分ける

- (1) コース 石神城址公園
(2) 観察内容

・樹木の葉シートの作成…①葉を採集②紙に貼り付ける③名前を記入する④スキャンする⑤ラミネートする
・作成した樹木の葉シート

イロハモミジ、エビヅル、カマツカ、クヌギ、クマシデ、クマノミズキ、クロモジ、ケヤキ、コゴメウツギ、コナラ、コマユミ、トウカエデ、ドウダンツツジ、ノブドウ、ハウチワカエデ、ハンノキ、ヒイラギ、ミズキ、モミジイチゴ、ヤマコウバシ

● 12月13日(土)

- (1) コース 交流館周辺

- (2) 観察内容

・道沿いで冬芽と葉痕をつけている植物を見つける。
・葉痕とは葉がついていた痕。木の種類によっていろいろな形をしている。



▲アジサイの葉痕



▲オニグルミの葉痕



・観察した葉痕

アオハダ、アカメガシワ、アケビ、アジサイ、イチヨウ、イヌシデ、エドヒガン、エノキ、オニグルミ、カキノキ、ガマズミ、クズ、クヌギ、クリ、クロモジ、ケヤキ、コウヤボウキ、コゴメウツギ、コナラ、コマユミ(ニシキギ)、サルトリイバラ、シラカシ、ソメイヨシノ、タマアジサイ、タラノキ、トウカエデ、トチノキ、ナツツバキ、ナツロウバイ、ニワトコ、ヌルデ、ハナズオウ、ハナミズキ、ハナモモ、フジ、ブナ、ミツバアケビ、ムラサキシキブ、メギ、モミジイチゴ、ヤツデ、ヤマグワ、ヤマコウバシ、ヤマナラシ、ロウバイ

●1月17日(土) 古文書に記録された植物

(1)コース 国登録文化財照沼家住宅

(2)観察内容

・照沼家の庭園見学、照沼家の古文書、馬具の名称と鑑の種類、伊勢物語から、ムサシアブミ、救民妙薬、万葉集、江戸時代の古典園芸植物。

●2月21日(土) 植物図鑑を読み比べる

(1)コース 中央公民館

(2)観察内容

・植物図鑑の発達とその背景について
・牧野富太郎の功績

- ① 「新種の植物の発見・命名、および標本収集」↓学会誌「植物学雑誌」の創刊。
 - ② 「牧野式植物図」と呼ばれる植物図の画法を確立↓牧野日本植物図鑑他多数。
 - ③ 植物知識の教育普及活動。
- ・『らんまん』から学ぶ牧野富太郎
・明治40年ころに植物図鑑が多く出現した理由
・牧野富太郎が命名した植物は1500種以上

●3月21日(土) 新芽で落葉樹を見分ける

(1)コース 交流館周辺

(2)観察内容

・種の展示(わたしが旅する10の理由)解説
・展示した種

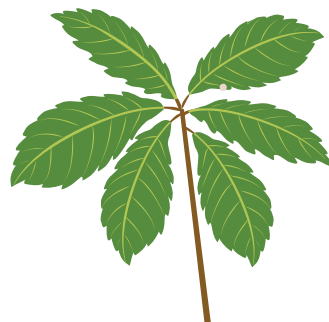
アカマツ(マツ科)、アレチヌスビトハギ(マメ科)、オオオナモミ(キク科)、カラスウリ(ウリ科)、カラスノゴマ(アオイ科)、カワラナデシコ(ナデシコ科)、キンミズヒキ(バラ)、

クヌギ(ブナ科)、ケチヂミザサ(イネ科)、コガマ(ガマ科)、コセンダングサ(キク科)、ススキ(イネ科)、セイタカアワダチソウ(キク科)、セイヨウタンポポ(きく科)、センニンソウ(キンポウゲ科)、タカサゴユリ(ユリ科)、トベラ(トベラ科)、ナンテン(メギ科)、フジ(マメ)、ブタナ(キク科)、ヘクソカズラ(アカネ科)、マンリヨウ(サクラソウ科)、ミズヒキ(タデ科)、ムラサキシキブ(シソ科)、メマツヨイグサ(アカバナ科)、ヤブラン(ユリ科)

・実(果実)と種(種子)の違い

・新芽の観察

ハンノキ、コナラ、クヌギ、フジなど。



令和7年度 とうかいまるごと博物館 実績

No.	タイトル	日時	実施場所/集合場所	ジャンル	参加人数	主催
1	みんなですこやかウォーキング	4月4日	白方桜薫る田園コース	その他	26	健康増進課
2	虫こぶ展ミュージアムトーク	4月19日	歴史と未来の交流館	自然	30	生涯学習課
3	J-PARC/ハローサイエンス「中性子でのぞく電池の中のマイクロワールド」	4月22日	AQBRC/オンライン	科学	66	J-PARCセンター
4	歴史と未来の交流館GWフェア	4月26日～5月5日	歴史と未来の交流館	その他	3000	生涯学習課
5	東海村史を読む1 旧石器時代の東海村	4月27日	歴史と未来の交流館	歴史	5	生涯学習課
6	みんなですこやかウォーキング	5月2日	ふれあいの森から新緑のコース	その他	24	健康増進課
7	ゴールデンウィークイベント	5月3日、5月4日	原子力科学館	科学・体験	1158	(公社)茨城原子力協議会
8	お歯黒インクでステキなカードづくり	5月5日	歴史と未来の交流館	その他	3	生涯学習課
9	博物館長と歩く植物観察会「雑木林の植物」	5月17日	押延ため池いこいの森 (※雨天のため交流館活動室2)	自然	10	生涯学習課
10	企画展「家の中のおじゃま虫」	5月17日～6月8日	原子力科学館	科学・体験	1398	(公社)茨城原子力協議会
11	古民具整理ボランティア①	5月22日	歴史と未来の交流館	民俗	7	生涯学習課
12	東海村史を読む2 縄文・弥生時代の東海村	5月25日	歴史と未来の交流館	歴史	5	生涯学習課
13	J-PARC/ハローサイエンス「空から降り注ぐミュー粒子で古代の謎を探る」	5月30日	AQBRC/オンライン	科学	88	J-PARCセンター
14	磯の生き物観察会	5月31日	平磯海岸	自然	開催中止	東海村の環境調べ隊
15	3館スタンプラリー	5月31日～6月29日	歴史と未来の交流館 原子力科学館 東海原子力館別館	イベント	629	生涯学習課 (公社)茨城原子力協議会 日本原子力発電(株)
16	「ハダムシ!？」	6月8日	原子力科学館	科学・体験	35	(公社)茨城原子力協議会
17	シェリーのネイチャーラボ「海岸の漂着物くらべ」	6月14日	歴史と未来の交流館	自然	7	生涯学習課
18	古民具整理ボランティア②	6月19日	歴史と未来の交流館	民俗	7	生涯学習課
19	ホタル観察会①	6月20日	真崎コミセン周辺	自然	63	生涯学習課
20	博物館長と歩く植物観察会「堤防の植物」	6月21日	新川沿い	自然	11	生涯学習課
21	ホタル観察会②	6月27日	真崎コミセン周辺	自然	61	生涯学習課
22	J-PARC/ハローサイエンス「敵か味方か!? ビームとガスの相互作用」	6月27日	AQBRC/オンライン	科学	34	J-PARCセンター
23	東海村史を読む3 古代の東海村	6月29日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
24	照沼海岸、新川のごみひろい、自然観察	6月29日	照沼海岸	イベント	33	東海村自然倶楽部
25	げんでん夏のスマイルフェア	7月12日、7月13日	東海原子力館別館	科学	552	日本原子力発電(株)
26	博物館長と歩く植物観察会「用水路の植物」	7月19日	石神外宿周辺	自然	9	生涯学習課
27	暗号を解いて帰還せよ! 謎解きミッション	7月19日～8月31日	歴史と未来の交流館	70周年	500	生涯学習課
28	とうかいまるごと謎解きアドベンチャー【古代海底都市と蛇の封印】	7月19日～8月31日	歴史と未来の交流館ほか	70周年	3000	生涯学習課
29	アインシュタイン博士からの謎解き挑戦状	7月19日～8月31日	原子力科学館	科学・体験	1717	(公社)茨城原子力協議会
30	昼の里山の虫の観察会	7月20日	真崎コミセン周辺	自然	40	東海村の環境調べ隊
31	古民具整理ボランティア③	7月24日	歴史と未来の交流館	民俗	7	生涯学習課
32	虫博士がやってくるー博士たちの研究日記	7月25日	村立図書館	自然	40	東海村の環境調べ隊 東海村立図書館
33	J-PARC/ハローサイエンス「超伝導磁石がつくる磁場」	7月25日	AQBRC/オンライン	科学	57	J-PARCセンター
34	夜の里山の虫の観察会	7月26日	真崎コミセン周辺	自然	30	東海村の環境調べ隊
35	東海村史を読む4 中世の武士たちと東海村	7月27日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
36	(J-PARC夏休み科学実験教室)かたむいているのに倒れない! 不思議なコマづくり【低学年対象】	7月29日	歴史と未来の交流館	科学	19	J-PARCセンター
37	(J-PARC夏休み科学実験教室)すがたを変える水ー雪の結しようを観察しようー	7月29日	歴史と未来の交流館	科学	17	J-PARCセンター
38	(J-PARC夏休み科学実験教室)かたむいているのに倒れない! 不思議なコマづくり【高学年対象】	7月30日	歴史と未来の交流館	科学	9	J-PARCセンター
39	(J-PARC夏休み科学実験教室)ハドロンでアクセサリをつくろう	7月30日	歴史と未来の交流館	科学	19	J-PARCセンター
40	発表力アップ大作戦! ～からだで楽しく学ぶ環境問題～	8月2日	総合福祉会館「絆」多目的ホール	環境問題	開催中止	東海村の環境調べ隊
41	のぶちゃん先生と神谷博士率いるチームゲタポンの空気・真空って何だ教室II	8月2日	歴史と未来の交流館	科学	70	とうかい子どもキャンパス
42	のぶちゃん先生と行く親子職場見学ツアー第1弾「大洋工業」	8月5日	大洋工業(日立市)	科学	7	とうかい子どもキャンパス
43	大助人形づくり	8月8日	歴史と未来の交流館	民俗	20	生涯学習課
44	羊毛フェルトでスズメのプローチをつくろう	8月8日	中央公民館 会議室4・5	自然	45	東海村の環境調べ隊
45	博物館長と歩く植物観察会「植物図鑑の使い方-植物名を同定する-」	8月16日	中央公民館 会議室4・5	自然	13	生涯学習課
46	古民具整理ボランティア④	8月21日	歴史と未来の交流館	民俗	7	生涯学習課
47	サイエンスショー	8月21日	真崎コミセン	科学	50	東海村の環境調べ隊
48	シェリーのネイチャーラボ「星空の地図を作ろう」	8月23日	歴史と未来の交流館	自然	20	生涯学習課
49	のぶちゃん先生と行く親子職場見学ツアー第2弾「J-PARC」	8月23日	J-PARC研究棟及びMLF棟	科学	35	とうかい子どもキャンパス
50	J-PARC・原子力科学研究所施設公開2025	8月23日	J-PARC及び原子力科学研究所	科学	1648	J-PARCセンター 原子力科学研究所
51	第2回東海村のサンショウウオおみんでシンポジウムへあつまれ! 自然大好きっ子～	8月24日	歴史と未来の交流館	イベント	52	東海村自然倶楽部
52	東海村史を読む5 信仰と東海村	8月31日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
53	歩く博物館「小さなお地蔵さんを巡る」	9月13日	石神地区	民俗	12	生涯学習課
54	古民具整理ボランティア⑤	9月18日	歴史と未来の交流館	民俗	5	生涯学習課
55	博物館長と歩く植物観察会「クロマツ林の植物」	9月20日	豊岡海岸	自然	16	生涯学習課
56	J-PARC/ハローサイエンス「イオンビームをつくるー負水素イオン源ー」	9月26日	AQBRC/オンライン	科学	57	J-PARCセンター
57	東海村史を読む6 近世のはじまり	9月28日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
58	みんなですこやかウォーキング	10月3日	「絆」周回ヘルスロードA～Dコース	その他	24	健康増進課
59	古文書講座「東海村と修験道(1)」	10月4日	歴史と未来の交流館	歴史	14	生涯学習課
60	キノコ観察会	10月5日	真崎コミセン	自然	40	東海村の環境調べ隊
61	博物館長と歩く植物観察会「イネ科植物を見分ける」	10月18日	歴史と未来の交流館周辺	自然	9	生涯学習課

No.	タイトル	日時	実施場所/集合場所	ジャンル	参加人数	主催
62	シェリーのネイチャーラボ「どんぐりを見分けよう」	10月19日	歴史と未来の交流館	自然	10	生涯学習課
63	白方公園自然観察とコケ保全	10月19日	白方公園	イベント	開催中止	東海村自然倶楽部
64	古民具整理ボランティア⑥	10月23日	歴史と未来の交流館	民俗	5	生涯学習課
65	東海村史を読む7 真崎浦の干拓	10月26日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
66	J-PARC/ハローサイエンス「ミュオンに恋して～究極の精密測定で挑む宇宙のひみつ～」	10月31日	AQBRC/オンライン	科学	69	J-PARCセンター
67	コケ観察会～田んぼに生えるコケ～	11月1日	願船寺周辺の田んぼ	イベント	12	東海村自然倶楽部
68	歩く博物館「古墳めぐり（ミュージアムトーク）」	11月2日	中道前古墳群	歴史	18	生涯学習課
69	昔の民具で脱穀体験	11月3日	歴史と未来の交流館	体験	36	生涯学習課
70	東海村てつどう大作戦2025	11月8日～11月23日	歴史と未来の交流館	イベント	3000	生涯学習課
71	のぶちゃん先生とムーバーズ+ムコナくんによる楽しい鉄道講座	11月8日	歴史と未来の交流館	イベント	30	生涯学習課/ JRステーションサービス
72	天体観測会	11月8日	総合福祉センター「絆」多目的ホール	自然	55	東海村の環境調べ隊
73	ミュージアムトーク「茨城にもいた！謎の絶滅動物・デスマスチルス」	11月9日	歴史と未来の交流館	自然	30	生涯学習課
74	のぶちゃん先生といくひたちなか海浜鉄道	11月16日	ひたちなか海浜鉄道	イベント	18	生涯学習課
75	博物館長と歩く植物観察会「落葉樹を見分ける」	11月22日	石神城址公園	自然	10	生涯学習課
76	古民具整理ボランティア⑦	11月20日	歴史と未来の交流館	民俗	7	生涯学習課
77	鉄道の名門校「岩倉高校」がやってくる！	11月22日	歴史と未来の交流館	イベント	100	生涯学習課
78	3館スタンプラリー	11月22日～12月26日	原子力科学館 東海原子力館別館 歴史と未来の交流館	イベント	773	(公社)茨城原子力協議会 日本原子力発電(株) 生涯学習課
79	J-PARC講演会2025兼J-PARC/ハローサイエンス	11月29日	東海村産業・情報プラザ(アイヴィル) 多目的ホール	科学	102	J-PARCセンター、東海村 東海村教育委員会
80	東海村史を読む8 宗教改革と東海村	11月30日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
81	歩く博物館「城めぐり」	12月6日	石神城址公園	歴史	26	生涯学習課
82	クリスマスイベント	12月6日、12月7日	原子力科学館	科学・体験	692	(公社)茨城原子力協議会
83	シイタケ原木栽培体験コース①原木の準備	12月7日	押延ため池いこいの森	体験	10	自然のみどりを守る会
84	博物館長と歩く植物観察会「冬芽と葉痕」	12月13日	歴史と未来の交流館周辺	自然	13	生涯学習課
85	げんでんウィンターフェア	12月13日、12月14日	東海原子力館別館	科学	477	日本原子力発電(株)
86	流れ星と秋から冬の星座のおはなし&星空観望会	12月14日	原子力科学館	自然	55	(公社)茨城原子力協議会
87	探鳥会1	12月14日	石神城址公園周辺	自然	開催中止	東海村の環境調べ隊
88	古民具整理ボランティア⑧	12月18日	歴史と未来の交流館	民俗	5	生涯学習課
89	J-PARC/ハローサイエンス「J-PARCニュートリノビームが宇宙観測に役立つ?」	12月19日	AQBRC/オンライン	科学	60	J-PARCセンター
90	石神城の謎にせまるー発掘調査の最前線ー	12月21日	歴史と未来の交流館	歴史	56	生涯学習課
91	のぶちゃん先生と行く親子職場見学ツアー第3弾「NSRR」	12月25日	JAEA	科学	開催中止	とうかい子どもキャンパス
92	東海村史を読む9 幕末の動乱	12月28日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
93	雑木林の落ち葉かき1	1月10日	押延ため池いこいの森	自然	7	自然のみどりを守る会
94	探鳥会2	1月11日	石神城址公園～久慈川周辺	自然	37	東海村の環境調べ隊
95	みんなですこやかウォーキング	1月16日	阿漕ヶ浦・虚空蔵堂コース	その他	21	健康増進課
96	博物館長と歩く植物観察会「古文書に記録された植物」	1月17日	歴史と未来の交流館	自然	15	生涯学習課
97	ミュージアムトーク「あの日の学校へタイムスリップ」	1月18日	歴史と未来の交流館		2	生涯学習課
98	古民具整理ボランティア⑨	1月22日	歴史と未来の交流館	民俗	7	生涯学習課
99	野鳥観察	1月23日	久慈川周辺	イベント	14	東海村自然倶楽部
100	親子星空観望会&ナイトミュージアム	1月23日	原子力科学館	自然	39	(公社)茨城原子力協議会
101	歩く博物館「竹瓦さんぼ」	1月24日	竹瓦地区	歴史	17	生涯学習課
102	石毛宏典氏トークショー「おやじ・根本陸夫を語る」	1月25日	東海村・産業情報プラザ「アイヴィル」	イベント	180	生涯学習課
103	J-PARC/ハローサイエンス「病院から美術品まで！加速器が活躍する意外な場所」	1月30日	AQBRC/オンライン	科学	68	J-PARCセンター
104	東海村史を読む10 村松晴嵐荘と原子力	2月1日	歴史と未来の交流館	歴史	7	生涯学習課
105	古文書講座「東海村と修験道(2)」	2月7日	歴史と未来の交流館	歴史	14	生涯学習課
106	雑木林の落ち葉かき2	2月7日	押延ため池いこいの森	自然	9	自然のみどりを守る会
107	探鳥会3	2月8日	豊岡なぎさの森公園周辺	自然	開催中止	東海村の環境調べ隊
108	根本陸夫杯☆バワフルプロ野球 ホームランバトル	2月11日	歴史と未来の交流館	イベント	40	生涯学習課
109	シェリーのネイチャーラボ「化石発掘体験」	2月15日	須和間地区	自然	20	生涯学習課
110	古民具整理ボランティア⑩	2月19日	歴史と未来の交流館	民俗	5	生涯学習課
111	博物館長と歩く植物観察会「植物図鑑を読み比べる」	2月21日	中央公民館 活動室3	自然	17	生涯学習課
112	企画展「土からわかる防災のはなし」	2月21日～3月8日	原子力科学館	科学・体験	2160	(公社)茨城原子力協議会
113	講演会「土地のなりたちと防災！あなたの土地は大丈夫？」	2月22日	原子力科学館	自然	39	(公社)茨城原子力協議会
114	J-PARC/ハローサイエンス「中性子を使った次世代のレントゲン」	2月27日	AQBRC/オンライン	科学	58	J-PARCセンター
115	親子星空観望会&ナイトミュージアム	2月27日	原子力科学館	自然	29	(公社)茨城原子力協議会
116	シイタケ原木栽培体験コース②種駒の打ち込み～仮伏せ作業	3月1日	押延ため池いこいの森	体験	7	自然のみどりを守る会
117	みんなですこやかウォーキング	3月6日	押延・天神山水と緑の里山コース	その他	21	健康増進課
118	げんでん春のぼかぼかテラちゃんフェア	3月7日、3月8日	東海原子力館別館	科学	563	日本原子力発電(株)
119	春イベント	3月7日、3月8日	原子力科学館	科学・体験	960	(公社)茨城原子力協議会
120	小さな石仏をめぐる旅～真崎地区編～	3月14日	真崎地区	民俗	15	生涯学習課
121	J-PARC/ハローサイエンス「加速器駆動システムの実現に向けた鉛ビスマス合金の取扱い技術」	3月19日	AQBRC/オンライン	科学	44	J-PARCセンター
122	博物館長と歩く植物観察会「新芽で落葉樹を区別する」	3月21日	歴史と未来の交流館周辺	自然	7	生涯学習課
123	原子力科学館	通年	原子力科学館	科学・体験		(公社)茨城原子力協議会
124	科学館クイズラリー	通年	原子力科学館	科学・体験	31311	(公社)茨城原子力協議会
125	科学館ひらがなラリー	通年	原子力科学館	科学・体験		(公社)茨城原子力協議会
126	来て、見て、知って！東海原子力館別館は楽しいことがいっぱい！	通年	東海原子力館別館	科学	9357	日本原子力発電(株)
参加者合計					65691	



東海村
歴史と未来の交流館
Tokai Village Museum

館内のイベント情報や
ミニコラム「学芸員だより」など
随時、更新しています！

ホームページ

公式 X



 まる博ジャーナル

発行 令和8年3月31日
発行者 東海村教育委員会(東海村歴史と未来の交流館)
所在地 茨城県那珂郡東海村村松768番地38
電話 029-287-0851
印刷 大富印刷株式会社